

— 令和4年度高知県学力定着状況調査結果の概要 —

令和5年2月
高知県教育委員会

— 目 次 —

1	調査の概要	2
2	本県の学力の状況	3
3	教科別調査結果	
	教科別調査結果について	6
(1)	小学校国語	7
(2)	小学校算数	12
(3)	小学校理科	17
(4)	中学校国語	20
(5)	中学校社会	25
(6)	中学校数学	30
(7)	中学校理科	35
(8)	中学校外国語（英語）	40
4	質問調査結果	45

令和4年度高知県学力定着状況調査の概要

I. 調査の目的

学力調査等の結果から明らかとなった学力について、その課題の改善状況及び定着状況を把握し、学習指導の充実や指導方法の改善に生かすとともに、各学校及び教育委員会における継続的な学力向上のための検証改善サイクルを確立する。

II. 調査への参加状況

◇ 参加学校数

小学校 第4学年 179校 第5学年 179校
 中学校 第1学年 90校 第2学年 92校
 義務教育学校（前期課程・後期課程） 4校

◇ 小学校解答（回答）児童数

第4学年

国語 4,695人 算数 4,701人 質問調査 4,759人

第5学年

国語 4,665人 算数 4,666人 理科 4,665人
 質問調査 4,713人

◇ 中学校解答（回答）生徒数

第1学年

国語 3,735人 社会 3,735人 数学 3,741人
 理科 3,731人 外国語（英語） 3,720人
 質問調査 3,749人

第2学年

国語 3,812人 社会 3,816人 数学 3,816人
 理科 3,803人 外国語（英語） 3,795人
 質問調査 3,846人

III. 調査事項

(1) 教科に関する調査

ア 出題教科

小学校第4学年…国語、算数

小学校第5学年…国語、算数、理科

中学校第1・2学年…国語、社会、数学、理科、外国語（英語）

※国語と外国語（英語）は、音声を聞いて答える問題も出題

イ 出題内容

主として「知識」に関する問題及び「活用」に関する問題

選択式・短答式・記述式の問題形式

(2) 学習状況や生活の諸側面等に関する質問調査（ICT端末を活用したオンラインによる）

IV. 調査実施期間

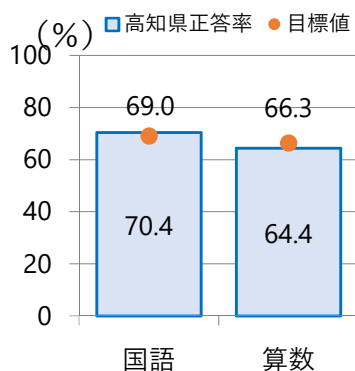
- ・教科に関する調査 令和4年12月6日（火）～12月8日（木）
- ・質問調査 令和4年12月5日（月）～12月9日（金）



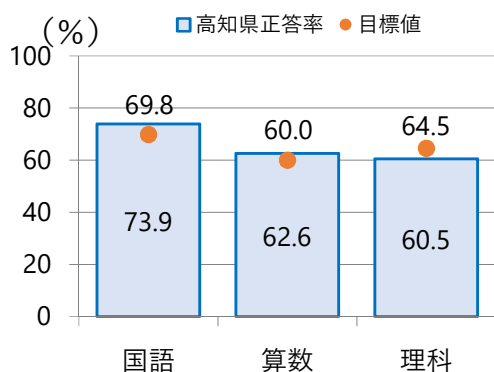
本県の学力の状況

小学校調査

第4学年

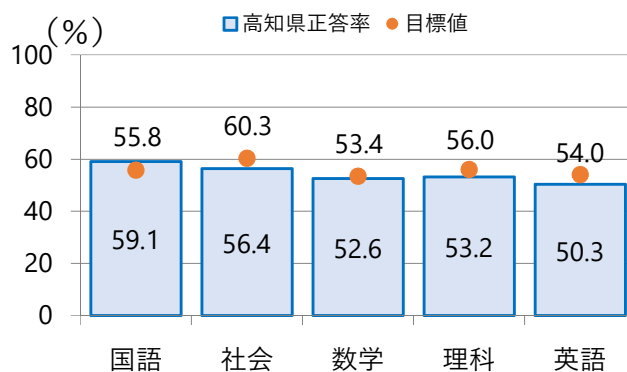


第5学年

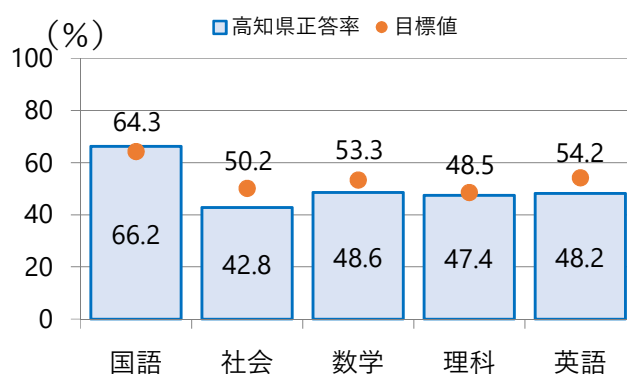


中学校調査

第1学年



第2学年



*目標値

各地の児童生徒を一定数抽出し、サンプル調査を実施・検証したうえで設定した期待される正答率です。

県教育委員会としては、目標値に到達していれば、標準的な学力(全国並みの力)が付いているととらえています。



～小学校～

◆小学校は、国語・算数において、概ね目標値に近い、もしくは目標値を上回る結果となっており、一定の学力の定着が図られていると評価しています。しかし、5年生の理科においては、目標値を下回っています。

○国語：4年生、5年生ともに目標値を上回っており、概ね学力の定着が図られています。特に、これまで課題がみられていた、「修飾・被修飾」の関係については目標値を上回り、言葉と言葉の関係に着目させる授業展開が浸透してきているものと評価しています。一方で、4年生、5年生ともに、事例と関連付けて、自分の考えが伝わるように書くことに課題がみられます。書いた文章が相手に伝わるかどうかについて考えさせる学習場面を設定することが必要です。

2 本県の学力の状況

- 算数:4年生、5年生ともに、活用に関する(思考を問う)問題は概ね目標値に近い結果となっており、自分の考えを説明するなど思考の過程を大切に授業が行われている成果と考えます。一方、4年生では、あまりのあるわり算や直線の平行や垂直の関係について理解することなどに課題がみられます。
- 理科:植物の発芽、成長、結実の学習において、実験を計画したり、結果を推測したりすることに改善がみられます。しかしながら、メダカの飼育方法や育ち方、顕微鏡の倍率の求め方などを問う問題は目標値と大きな差があり、知識や技能の定着に課題がみられます。これは、観察する機会や時間が十分確保されていなかったり観察の目的が明確でなかったりすることが原因の一つと考えられます。

～中学校～

- ◆中学校は、国語において目標値を上回る結果となっています。それ以外の教科はすべて目標値を下回っています。
- 国語:小学校では課題となっていました「書くこと」について、1年生、2年生ともに成果がみられました。「書くこと」の授業において、多様な考えがでる事柄について意見文を書く指導の充実が図られていることがうかがえます。一方で、表現の効果(比喩の理解等)には課題がみられます。
- 社会:1年生、2年生ともに、目標値を下回る結果となっています。2年生では、地理的分野、歴史的分野ともに課題がみられます。歴史的事象の背景や影響などを関連させながら学習することや、知識を繰り返し活用ながらの学習が十分でないことがうかがえます。
- 数学:1年生では、全国学力・学習状況調査の結果から課題の改善を図る学校の取り組みに成果がみられます。一方で、速さ、道のり、時間の関係を捉え、方程式に表すなど、小学校での学びを生かすことや数量の関係を式に表すことに課題がみられます。2年生では、式を立てることや式の意味を説明することなどに課題がみられます。
- 理科:1年生、2年生ともに、思考を問う問題では目標値に近い結果となっています。一方で、光の道筋を作図するなどの技能面では正答率が低くなっています。暗記だけの知識ではなく、例えば、光の性質について探究する中で、光の道筋の作図を用いて考える場面を設定していくことが必要です。
- 外国語:1年生、2年生ともに、日常的で簡単な事柄について必要な情報を「聞き取る」ことに改善がみられます。一方、長文を読んでその内容を捉え英語で答えるなど「読むこと」「書くこと」の領域を統合した問題では、依然として課題がみられます。日頃の授業で継続的にやりとりする機会を増やしたり、文章の概要や要点を捉えたりする活動が十分でないことがうかがえます。

2 本県の学力の状況

～質問調査～

- 「平日のテレビや動画の視聴時間、インターネットやゲームの使用時間」を問う項目では、「2時間くらい」以上と回答した児童生徒の割合が、令和3年度よりも増加しています。生活習慣の乱れとともに、家庭学習習慣の定着にも課題がみられます。
- 授業中におけるタブレットなどの ICT 機器の活用については、学年が上がるにつれて、ICT 機器を活用した授業実践が進んできています。しかしながら、日常的な活用については、十分ではないため、各校での取組の推進が必要です。

～本年度の結果を受けて～

- 各学校における調査結果分析及び対応策の策定・取組への支援
 - ・全学年・全教科の結果分析と今後の授業改善に向けた解説をオンデマンド配信
 - ・課題の大きかった社会・英語については授業アイデア例を作成・配信

～次年度の取組～

○授業改善による学力向上

- ☞主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進
- ・授業づくり講座の拡充
(国語、社会、算数・数学、理科、生活・総合的な学習の時間、外国語、特別の教科 道徳、複式、小学校教科担任制、CST など)

○基礎・基本の定着

- ☞デジタルドリル活用実証研究の実施
 - ・AIデジタルドリルの導入、学力補完の方策の研究
 - ・1人1台端末の持ち帰りによる授業と家庭学習のサイクル化の推進
 - ・デジタル技術を活用した効果的な学力補完の好事例の発信

○中学校における対策強化

- ☞中学校のPDCAサイクルの確立に向けた取組強化
 - ・「教科のタテ持ち」校に配置した主幹教諭を対象とした連絡協議会の実施
 - ・「小学校教科担任制・組織力向上アドバイザー」の訪問指導による徹底
- ☞授業改善の取組強化
 - ・中学校5教科ブラッシュアップ研究協議会の実施
 - ・中学校5教科授業改善プラン訪問の拡充

○教員の ICT 活用指導力の向上に向けた取組の充実

- ☞ICT 活用指導カスキルアップ研修会の実施

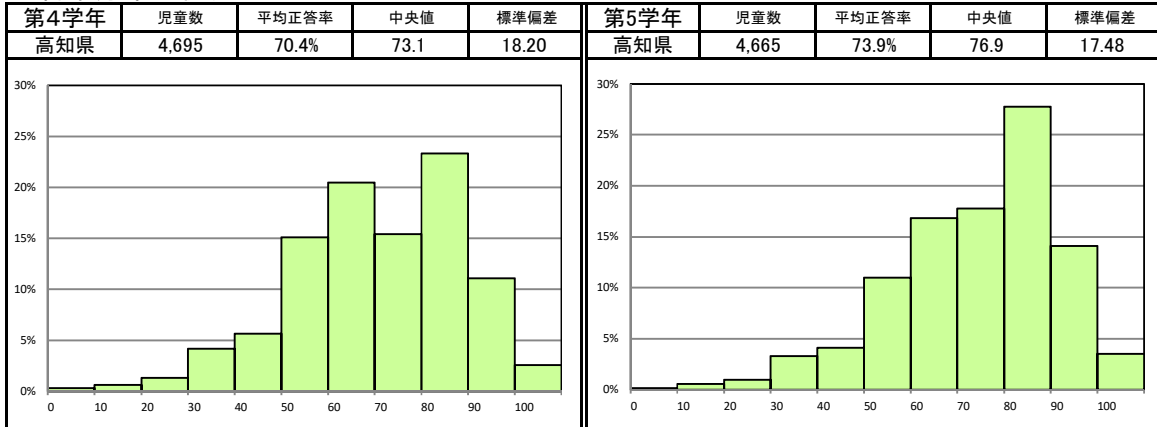
(1) 小学校国語

【分類・区別の状況】

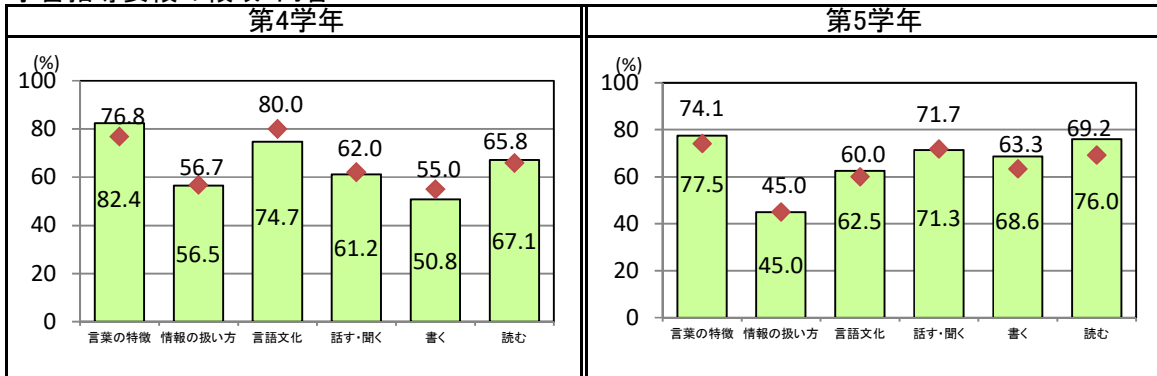
■高知県正答率

◆目標値

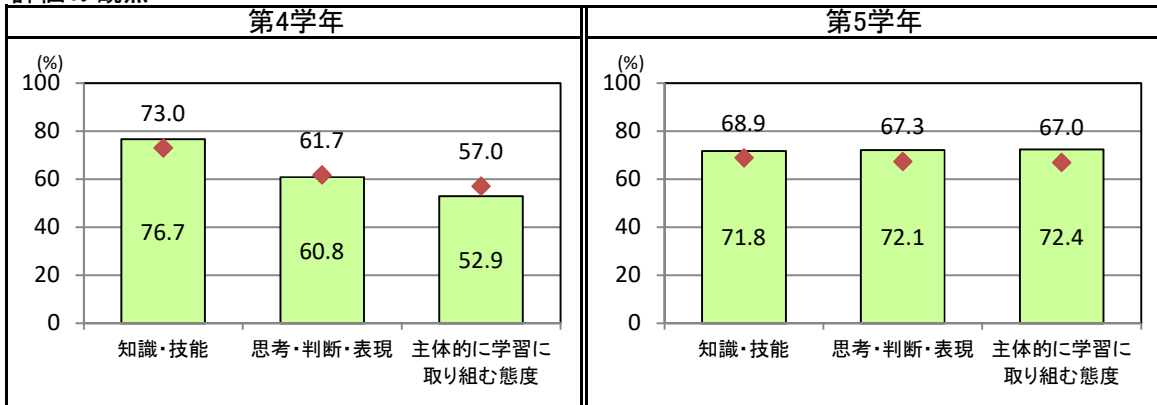
正答率分布の状況



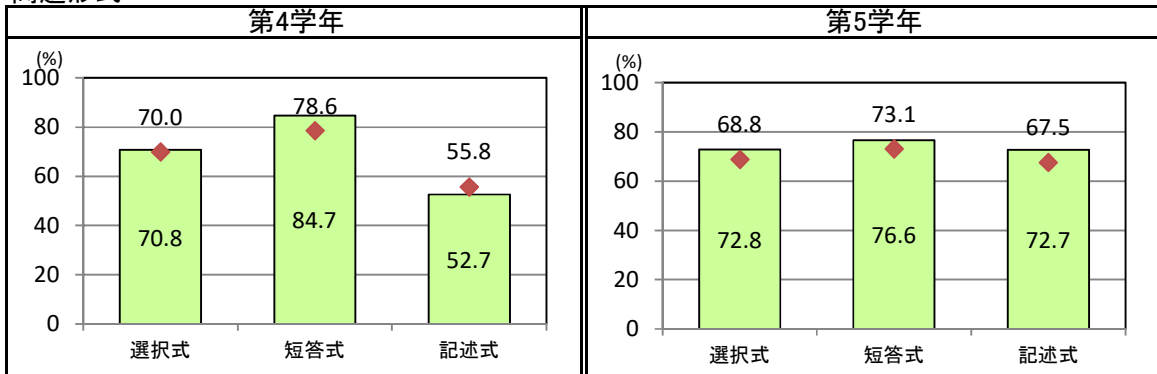
学習指導要領の領域・内容



評価の観点



問題形式



これまでの授業改善からみられる成果

「修飾・被修飾」の関係を問う問題について、目標値より9.3ポイント高く、修飾するという言葉の意味が理解できていると考えられる(大問3(2))。これは、言葉の学習の際だけでなく、国語科において「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全領域の中で言葉と言葉の関係に着目させる授業展開が浸透してきていることと、他教科との関連のなかでも活用する場面を取り入れてきた成果だと考える。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率(%)	目標値との差
記述	7	B(1)ウ 考えの形成・記述	内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている 内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いている	51.6% 35.2%	-8.4 -4.8

取材メモから新聞にのせる文章を書く問題において、取材メモから事実を取り上げることができているが、それらを文章として構成したり、自分の感想を加えたりすることができていない。このことから、事例と考えなどを関連付けた書き表し方を工夫する指導が十分ではないことが考えられる。

授業改善のポイント

理由と事例を用いる効果を理解する学習場面を設定する。

自分の考えとそれを支える理由と事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫する指導においては、その効果を理解させることが重要である。そのため、自分の考えとそれを支える理由や事例のそれぞれの効果について、児童自身が考えたり、理解したりする学習場面を設定することが考えられる。また、理由や事例を明確に区別して書くために、「なぜなら～」「～ためである」「例えば～」等の文頭や文末表現を用いて記述できるようにすることが求められる。

付けたい力

自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫することができる。

理由・事例を区別する

平山さん②の文章

教員作成の文章①

①と②の文章を見て、何か気付くことはありますか？

②の方が実際に聞き取ったことが多く書かれているので分かりやすいね。

②は事例だけでなく、自分の考えも書かれているところがいいね。

②は「私は～と思います。」というところが自分の考えだね。分かりやすいね。

②は、なぜ平山さんがそう思うのか理由を書いているね。「なぜなら～」から始まっている部分が理由だね。

効果について考える

理由や事例があると、どうして分かりやすいのですか？

事例を書いていると、自分の考えに説得力が出ると思います。

理由や事例をきちんと分けて書くことで、相手に伝わりやすくなると思います。

理由と事例で文のはじめや文末の書き方を工夫しているから、より分かりやすい文章になると思います。

人に伝えるためには、理由や事例を入れて、より詳しく書くことが大切なんだね。

★色分けをしながらか線をひく⇒可視化

内容を分類したり、文頭・文末に目を向けてたりすることで、関係性を明確にする。

★効果について、付箋に記入し、文中の線を引いた部分に貼る⇒グループ活動

効果を考えることで、読み手に分かりやすい文章になることが理解できる。

これまでの授業改善からみられる成果

「登場人物の心情について、描写を基に捉えること」や「文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げること」について、目標値を大きく上回る結果となった。人物の心情を捉える言語活動を設定し、読む目的や読みの観点を明確にするとともに、考えたことをまとめさせたり、まとめたことを交流させたりする指導が浸透してきている成果であると考えられる。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
記述	6 (2)	知識及び技能 (2) ア 情報と情報との関係 B (1) ウ 考えの形成・記述	情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。	39.4	-0.6

目的や意図に応じて、複数の叙述から必要な情報を選択することや、相手に分かりやすく伝えるための効果的な表現の仕方が理解できていないと考えられる。従って、伝えたいことの根拠となる複数の事例等の整理の仕方や、自分の考えが伝わるような書き表し方を工夫する指導が十分ではないと考えられる。

授業改善のポイント

伝えたいことの根拠となる理由や事例を明確にし、自分の考えが伝わるように書く活動を仕組む。

書くことの指導においては、目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして整理することで伝えたいことを明確にし、書き表し方を工夫して、考えが伝わるように書く言語活動を仕組むことが重要である。

また、その過程で、語句と語句を囲んだり、線で結んだりして情報を整理する力や、相手に分かりやすく伝えるために、書く内容の順や理由や事例とのつながり方を捉える力、効果的な表現を使って書く力を育成する指導が必要だと言える。

付けたい力 情報と情報との関係について理解し、目的や意図に応じて表現することができる。

学ぶ目的と手段を設定する

委員会が調べたら、最近、給食の残食が多くなっていることが分かったよ。

現状を学校のみみんなに知ってもらう方法はないかな。

残食を減らすために、調理員さんや保健の先生にインタビューしたり、調べたりしたことを「給食だより」にして、全校に伝えよう！

- ★なぜ伝えるのか⇒目的や意図
- ★何を伝えるのか⇒伝えたいこと
- ★どのように伝えるのか⇒表現の仕方

子どもが主体的に学ぶ言語活動を設定する。

伝えたいことを明確にする

調理員さんに聞いたこと ① 保健の先生に聞いたこと ② 給食委員会調べたこと ③

③から、残食量が多い月を伝えたいな。

いいね。あとで書くときに分かるように、多かった「月」と「量」に印を入れよう。

①と②から、残食が多い「原因」とそれに対する「対策」が書けそうね。

①と②から赤の付箋に「原因」を、青の付箋に「対策」を書き、関係を整理すると、伝えたいことが明確にできそうだね。

- ★語句を囲む、つなぐ⇒可視化しながら整理
- ★付箋で分類、関係付け⇒書く内容を整理

伝えたいことを明確にするために、分類したり、関係付けたりして整理する。

考えが伝わるように表現する

〇△学校給食だより

どのように伝えようかな。

残食量について知ってもらうために、まず、③からわかる事実を書きたいな。

その次は、①と②から分かった「残食の原因」と「対策」について書くのはどうかな。

「対策」のあとには、残食を減らすために②の調理員さんからのメッセージや僕たちの意見を書いて伝えよう。

伝えたいことが伝わるように、順番や、内容のつながり方、文末の表現を考えよう。

- ★効果的に伝わる構成になっているか
- ★「事実」と「意見」が区別できているか

自分の考えが伝わるように、「事実」と「意見」等のつながりが分かりやすいか検討する。

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率 [小学校国語4年]

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連						評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					言葉の特徴	情報の扱い方	言語文化	話す・聞く	書く	読む	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1		(1)	話し合いの内ようを聞き取る	話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えている。				○				○		○			64.2	0.7	65.0
2	1	(2)	話し合いの内ようを聞き取る	話し手が伝えたいことの中心を捉えている。				○				○		○			81.7	0.4	80.0
3		(3)	話し合いの内ようを聞き取る	司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目している。				○				○	○		○		78.0	4.7	75.0
4		(1) ①	漢字を読む	第4学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。	○							○			○		96.0	0.6	90.0
5		(1) ②	漢字を読む	第4学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。	○							○			○		93.8	1.7	90.0
6		(1) ③	漢字を読む	第4学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。	○							○			○		99.4	0.3	90.0
7	2	(2) ①	漢字を書く	第3学年に配当されている漢字を正しく書いている。	○							○			○		76.7	4.0	70.0
8		(2) ②	漢字を書く	第3学年に配当されている漢字を正しく書いている。	○							○			○		73.6	3.8	70.0
9		(2) ③	漢字を書く	第3学年に配当されている漢字を正しく書いている。	○							○			○		85.3	2.4	80.0
10		(1)	言葉の学習	主語と述語について理解している。	○							○			○		78.3	0.5	70.0
11		(2)	言葉の学習	連体修飾語について理解している。	○							○			○		79.3	0.6	70.0
12	3	(3)	言葉の学習	ことわざの意味を知り、正しく使っている。			○					○			○		74.7	1.2	80.0
13		(4)	言葉の学習	漢字辞典の使い方を理解している。		○						○			○		66.1	1.0	70.0
14		(5)	言葉の学習	気持ちを表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。	○							○			○		94.6	0.9	90.0
15		(1)	物語の内ようを読み取る	登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えている。								○	○		○		81.0	0.3	80.0
16	4	(2)	物語の内ようを読み取る	登場人物の行動や気持ちについて、叙述を基に捉えている。								○	○		○		71.7	0.5	70.0
17		(3)	物語の内ようを読み取る	文章を読んで感じたことや考えたことを共有している。								○	○		○		46.9	1.0	50.0
18		(1)	説明文の内ようを読み取る	文と文との接続の関係を理解し、文章の内容を捉えている。	○							○	○	○		○	77.8	0.7	75.0
19	5	(2)	説明文の内ようを読み取る	叙述を基に段落相互の関係を捉えている。								○	○		○		57.0	1.2	60.0
20		(3)	説明文の内ようを読み取る	情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約している。		○						○	○	○		○	68.3	4.2	60.0
21		(1)	調べて分かったことを発表する	相手に伝わるように、事例を挙げながら話している。								○	○		○		46.8	4.7	50.0
22	6	(2)	調べて分かったことを発表する	情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話している。		○						○	○	○		○	35.2	12.0	40.0
23			文章を書く	指定された長さで文章を書いている。								○	○	○		○	64.4	16.4	70.0
24	7		文章を書く	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。	○							○	○			○	52.1	16.4	50.0
25			文章を書く	内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書いている。								○	○	○		○	51.6	16.4	60.0
26			文章を書く	内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書いている。								○	○	○		○	35.2	16.4	40.0

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率 [小学校国語5年]

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連						評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					言葉の特徴	情報の扱い方	言語文化	話す・聞く	書く	読む	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1		(1)	話し合いの内容を聞き取る	話の内容を明確にするための話し手の工夫を捉えている。				○				○		○			56.7	0.3	60.0
2	1	(2)	話し合いの内容を聞き取る	話し手の目的に応じて、話の内容を捉えている。				○				○		○			74.6	0.2	80.0
3		(3)	話し合いの内容を聞き取る	互いの立場を明確にししながら計画的に話し合い、考えを広げている。				○				○	○		○		82.7	5.8	75.0
4		(1) ①	漢字を読む	第5学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。	○							○			○		96.5	1.2	90.0
5		(1) ②	漢字を読む	第5学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。	○							○			○		98.7	0.4	90.0
6		(1) ③	漢字を読む	第5学年に配当されている漢字を正しく読んでいる。	○							○			○		98.9	0.4	90.0
7	2	(2) ①	漢字を書く	第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。	○							○			○		58.6	6.6	60.0
8		(2) ②	漢字を書く	第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。	○							○			○		76.1	3.9	70.0
9		(2) ③	漢字を書く	第4学年に配当されている漢字を正しく書いている。	○							○			○		86.2	3.6	80.0
10		(1)	言葉の学習	漢字の由来について理解している。			○					○		○			62.5	0.9	60.0
11		(2)	言葉の学習	連用修飾語について理解している。	○							○		○			40.0	0.4	35.0
12	3	(3)	言葉の学習	敬語について理解し、正しく使っている。	○							○		○			81.6	0.4	85.0
13		(4)	言葉の学習	思考に関わる語句の量を増し、語彙を豊かにしている。	○							○		○			94.3	0.4	90.0
14		(5)	言葉の学習	文章の中で、文脈に沿った漢字を適切に使っている。	○							○		○			47.1	13.0	55.0
15		(1)	物語の内容を読み取る	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。								○	○		○		90.8	0.3	80.0
16	4	(2)	物語の内容を読み取る	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。								○	○		○		77.3	0.4	70.0
17		(3)	物語の内容を読み取る	文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げている。								○	○		○		78.0	0.4	65.0
18		(1)	説明文の内容を読み取る	文章全体の構成を捉えている。								○	○		○		75.4	0.6	70.0
19	5	(2)	説明文の内容を読み取る	叙述を基に文章の内容を捉えている。								○	○		○		83.7	0.6	80.0
20		(3)	説明文の内容を読み取る	情報と情報との関係について理解し、文章の情報を整理している。		○						○	○		○		50.7	7.3	50.0
21		(1)	学校新聞を作る	目的や意図に応じて、書き表し方を工夫している。								○	○		○		58.1	2.2	50.0
22	6	(2)	学校新聞を作る	情報と情報との関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書いている。		○						○	○	○		○	39.4	5.0	40.0
23			文章を書く	指定された長さで文章を書いている。								○	○		○		69.8	8.1	70.0
24	7		文章を書く	段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書いている。	○							○	○		○		74.0	8.1	70.0
25			文章を書く	自分の意見を明確にして書いている。								○	○		○		88.2	8.1	80.0
26			文章を書く	自分の意見を支える理由を明確にして書いている。								○	○		○		82.1	8.1	70.0

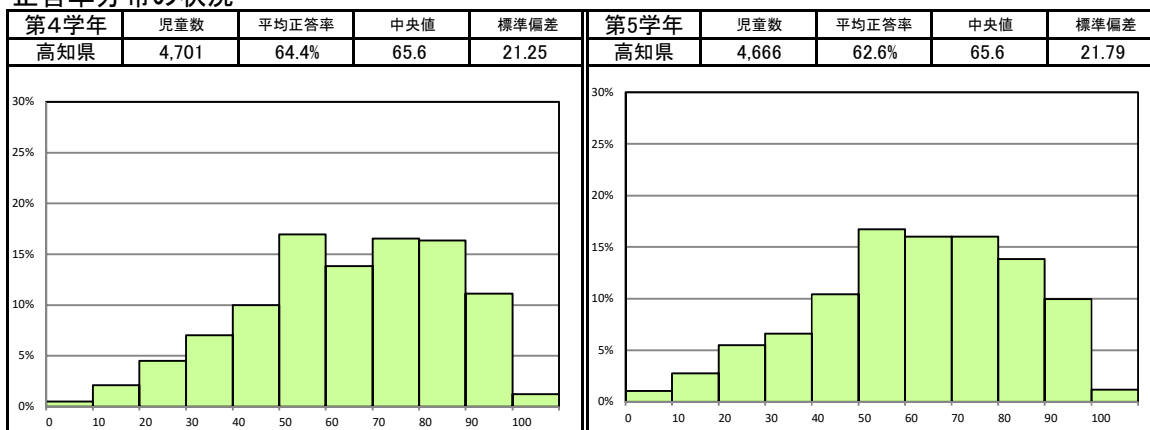
(2) 小学校算数

【分類・区別の状況】

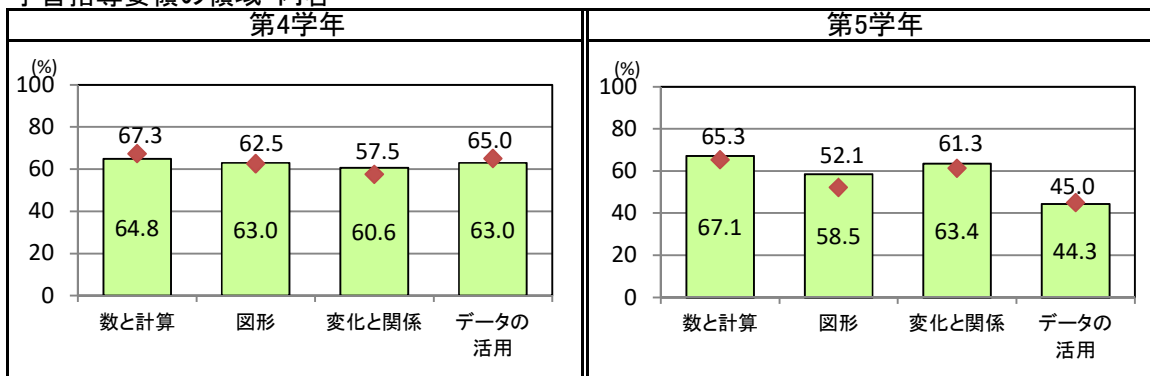
■高知県正答率

◆目標値

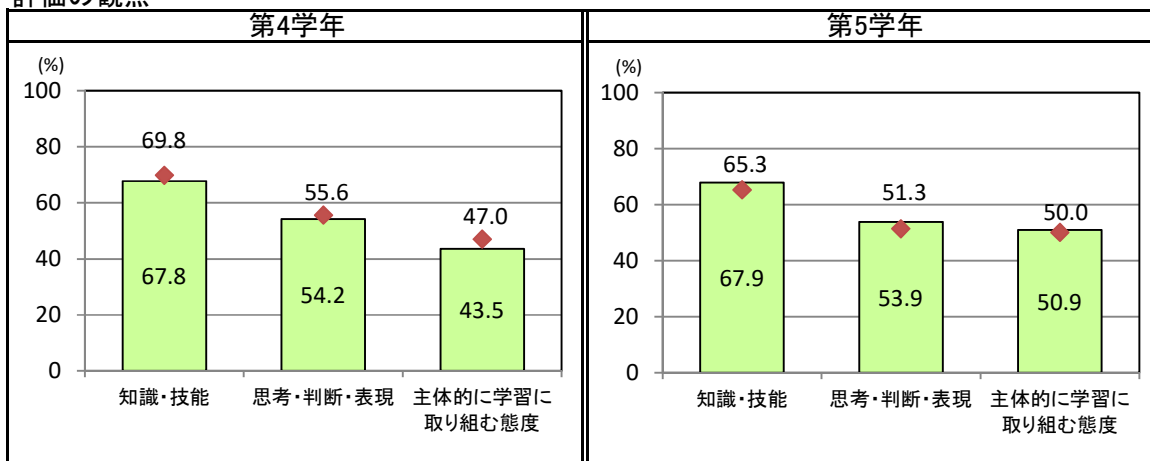
正答率分布の状況



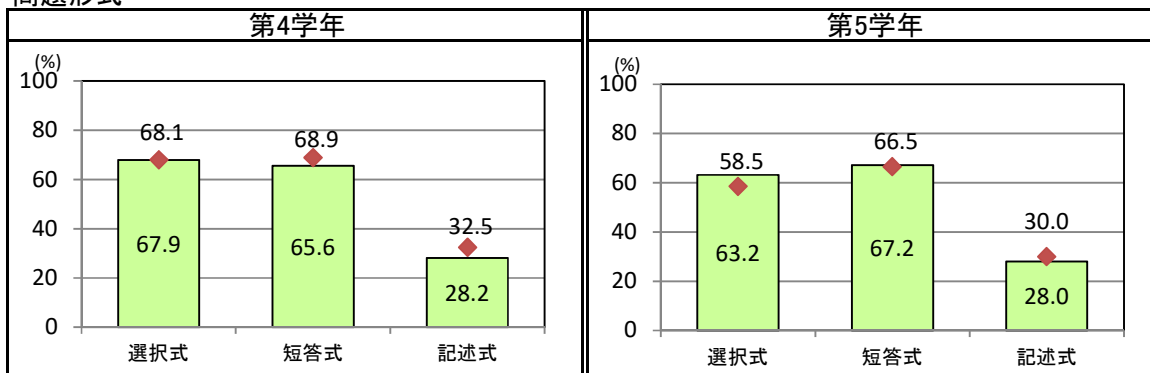
学習指導要領の領域・内容



評価の観点



問題形式



これまでの授業改善からみられる成果

四則混合で（ ）を用いた式の計算順序が理解できている。同様の問題においての昨年度の高知県正答率と比較しても、+11.8ptとなっている。理解を一層深めるためには、（ ）を用いない場合の四則の混合した様々な計算をする指導や、具体的な場面との関連で理解できるような指導を継続していくことが大切である。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
選択	14	B(1)ア(ア) 直線の平行や垂直の関係	方眼を使った垂直な直線の見つけ方を理解している。	35.5	+0.5

「二つの直線が直角に交わっているとき、この二つの直線は垂直である」という約束は理解できているが、垂直とは二直線の位置関係を表すものであり、形としての直角とは異なることが理解できていない。位置関係を表すということは、二直線が交わっていない場合も直線を延長して考える、といった図形の見方・考え方をイメージ豊かに働かせる必要があるが、その力が十分ではないと考える。

授業改善のポイント

必要な知識及び技能を身に付けることで終わるのではなく、身に付けた力を活用できるような場を設定する。

算数科においては、身に付けるべき基礎的・基本的な内容の習得を重視するとともに、その背景にある概念や性質についての理解を深めながら、理解に裏付けられた確かな知識及び技能を習得する必要がある。指導の際にはそれらを意識し、形式的な習得にとどめず、その知識及び技能を他の学習場面で活用できるようにすることが大切だと言える。概念や性質についての理解に裏付けられた確かな知識及び技能が、日常生活や社会における事象を数理的に捉え処理して問題を解決することに役立てられることが大切である。

付けたい力

知識及び技能を形式的な習得にとどめず、深い理解へとつなげ、知識及び技能を他の学習場面で活用することができる。

第4学年：直線の垂直についての理解 (知識・技能)



垂直とは二直線の位置関係を表しています。

二つの直線が直角に交わっているとき、この二つの直線は垂直であるという。

身のまわりから垂直や平行になっているものを探してみましょう。

垂直や平行なものたくさんあるね。

何か理由があるのではないかな。

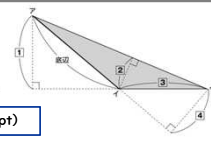
学習内容を系統的に捉え、その学習がどのように活かされていくのか、先の学びを意識した指導を重ねていく。

小学校第5学年：平面図形の面積の学習へのつながりを意識する

平行四辺形や三角形の底辺と高さが垂直の関係にあることを確実にしていく。

～具体的問題場面①～

下の三角形アイウの面積の求め方を考えます。
辺アイを底辺とするとき、高さはどの長さになりますか。
次の①から④までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。



高知県正答率52.3% 全国正答率54.6% (差:-2.3pt)

問題の出展：平成24年度全国学力・学習状況調査 算数A 大問5(2)

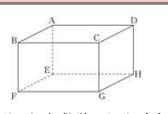
垂直は位置関係を表しているため、高さが底辺の延長線にかかる場合もあることを考える必要があります。

中学校第1学年：空間図形の学習へのつながりを意識する

小学校算数科で立体図形として扱っていたものを、空間図形(空間における線や面の一部を組み合わせたもの)として扱う点に留意する。

～具体的問題場面②～

(1) 下の図の直方体には辺CGに垂直な面がいくつかあります。そのうちの1つを選んで書きなさい。



高知県正答率43.5% 全国正答率47.4% (差:-3.9pt)

問題の出展：平成27年度全国学力・学習状況調査 数学A 大問5(1)

平面で考察したことを類推によって空間に拡張し、空間についての豊かな感覚を育むことが大切です。

これまでの授業改善からみられる成果

立体図形の体積について、直方体の体積の計算による求め方が理解できており、日常的な場面においても、その計算を用いて説明し、問題を解決することができると考えられる。算数科において、単に数値を用いてドリル的に問題を繰り返すのではなく、日常生活の場面において問題を解決していくような活動を取り入れる指導が浸透してきている成果だと考える。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
記述	15 (2)	C (2) イ (ア) 異種の二つの量の割合	ななみさんの式が何を求めているのかを理解し、どちらの田のほうがよくとれたといえるのかを説明している。	20.9	-9.1

異種の二つの量の割合として捉えられる量を比べることの意味が十分に理解できていない。つまり、除法の立式ができ、商を求めることができても、その商は何を求めたのかを理解できていない場合があると考えられる。従って、その意味の理解に基づいて、日常の事象の解決に活用することができる資質・能力の育成を目指す指導には至っていないことがうかがえる。

授業改善のポイント

段階的に意味を理解していく過程を重視し、問題場면을絵や図に表す活動などを取り入れる。

単位量当たりの大きさの学習においては、異種の二つの量の割合として捉えられる量を比べることの意味を十分に理解できるようにすることが大切である。児童一人一人が、見方・考え方を働かせながら、段階的に意味を理解できていくような指導が必要だと言える。

また、その過程で、児童の思い描く文脈に沿って学習を展開し、既習を十分に生かしながら、問題場면을絵や図に表したり、式の意味と図を関連付けたり、答えが何を表しているのかを言葉で説明したりする言語活動を充実させることも重要だと考えられる。

付けたい力

既習を基に問題場면을理解し、絵や図などと関連付けて考え、それらを根拠に考え方を説明できる。

すわっている人数とシートの面積

	人数(人)	面積(m ²)
A	12	6
B	8	5

出典：平成25年度
全国学力・学習状況調査 算数A 大問4

既習を生かし、見方・考え方を働かせる中で、段階的に、単位量当たりの大きさの考え方の意味を理解できるようにする。

どちらのシートのほうがこんでいるでしょう。

こんでいるのは当然人数が多いAだよな！

でもシートの面積もAのほうが広いから、簡単に比べられないよ。

人数と面積のどちらか一方がそろっていれば、もう一方の量の大小でこみぐあいを比べることができるのに。

A 12 ÷ 6 = 2
B 8 ÷ 5 = 1.6

出典：平成25年度
全国学力・学習状況調査 算数A 大問4

問題場面、図、式、答えの意味を関連付けて捉えることができるようにする。

このような式で求めました。

この2つの式だけでは、どちらがこんでいるのかはわかり分らないな。

Aの式の2と、Bの式の1.6は、いったい何を求めたのかな。

Aのシートにすわっている図

Bのシートにすわっている図

図を数直線へとつなげる

1 mあたりの人数で比べたいので、面積を6等分します。面積を6でわるので、人数も6でわります。だから、12 ÷ 6です。

1 mあたりの人数で比べたいので、面積を5等分します。面積を5でわるので、人数も5でわります。だから、8 ÷ 5です。

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率 [小学校算数4年]

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連				評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1		(1)	億と兆・がい数の表し方	命数法で書かれた数の記数法での表し方を理解している。	○				○			○			78.5	0.2	80.0
2	1	(2)	億と兆・がい数の表し方	10倍にした数を求めることができる。	○				○			○			88.4	0.1	85.0
3		(3)	億と兆・がい数の表し方	数直線上に示された大きい数の読み取り方を理解している。	○				○			○			82.0	0.3	85.0
4	2	(1)	小数	小数のしくみを理解している。	○				○			○			81.7	0.3	85.0
5		(2)	小数	小数を用いて長さの単位換算ができる。	○				○			○			53.8	1.6	60.0
6	3	(1)	億と兆・がい数の表し方	ある位までの概数の表し方を理解している。	○				○			○			71.6	1.9	80.0
7		(2)	億と兆・がい数の表し方	概数に対応する数の範囲を理解している。	○				○			○			62.3	1.3	70.0
8		(1)	計算のきまり	計算のきまりを使って、四則混合(加法・除法)の式の計算ができる。	○				○			○			59.3	1.6	75.0
9		(2)	わり算	3けた÷1けた=3けた(余りあり)の計算ができる。	○				○			○			44.0	4.3	60.0
10	4	(3)	わり算	3けた÷2けた=1けた(余りあり)の計算ができる。	○				○			○			65.7	5.3	60.0
11		(4)	小数	小数第二位+小数第二位(=整数)の計算ができる。	○				○			○			84.2	2.0	90.0
12		(5)	小数	小数第一位-小数第三位の計算ができる。	○				○			○			64.7	4.0	60.0
13	5		わり算	除法の筆算に出てくる数の意味を理解している。	○				○			○			60.1	1.5	55.0
14	6	式	わり算	文章問題を解くための除法の立式ができる。	○				○			○			85.7	1.9	85.0
15		答え	わり算	文章問題を解くために立式した3けた÷1けた=2けた(余りあり)の式から、余りの処理をして正しい答えを求めることができる。	○				○			○			70.2	3.3	70.0
16	7	(1)	簡単な場合についての割合	基準量を求める除法の文章問題を表した図を選ぶことができる。	○		○		○			○			77.6	1.4	75.0
17		(2)	簡単な場合についての割合	図を使って、基準量を求める除法の文章問題に合った立式ができる。	○		○		○			○			74.0	4.6	70.0
18	8		計算のきまり	計算のきまりを理解し、式に合った文章問題を選んでいる。	○				○			○			52.2	1.3	60.0
19	9		計算のきまり	四則混合で()を用いた式の計算順序を理解している。	○				○			○			81.7	1.3	80.0
20	10		計算のきまり	分配法則を用いて計算している。	○				○			○			59.4	1.8	55.0
21	11		角の大きさ	分度器の使い方を理解している。		○			○			○			88.4	1.1	85.0
22	12		角の大きさ	三角定規を組み合わせてできる角の大きさを計算で求めている。		○			○			○			76.4	2.1	75.0
23	13		角の大きさ	180°より大きい角を求めている。		○			○			○			72.4	1.7	70.0
24	14		垂直・平行と四角形	方眼を使った垂直な直線の見つけ方を理解している。		○			○			○			35.5	2.0	35.0
25	15	(1)	垂直・平行と四角形	平行四辺形の作図ができる。		○			○		○	○			58.5	5.4	60.0
26		(2)	垂直・平行と四角形	2つの円を用いて、ひし形の作図をしている。		○			○			○			46.9	5.9	50.0
27	16	(1)	折れ線グラフ	折れ線グラフの縦軸の1目もりの大きさを理解している。				○	○			○			55.9	6.0	60.0
28		(2)	折れ線グラフ	折れ線グラフを正しく読み取っている。				○	○			○			70.0	4.2	70.0
29		(1)	わり算	3けた÷2けた=1けた(余りあり)の式から、余りの処理をして正しい答えを求めることができる。	○				○		○	○			53.8	10.7	60.0
30	17	(2)	簡単な場合についての割合	基準量と比較量から求めた割合を比較して、どちらのゴムひもがよく伸びるといえるのかを説明している。	○		○		○	○		○			42.3	13.2	35.0
31		(3)	簡単な場合についての割合	数量の関係を、割合を使って説明することができる。	○		○		○	○	○	○			48.5	14.2	50.0
32	18		小数	示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って、小数の加法を整数の加法に直して処理する方法を説明している。	○				○	○		○			14.1	24.0	30.0

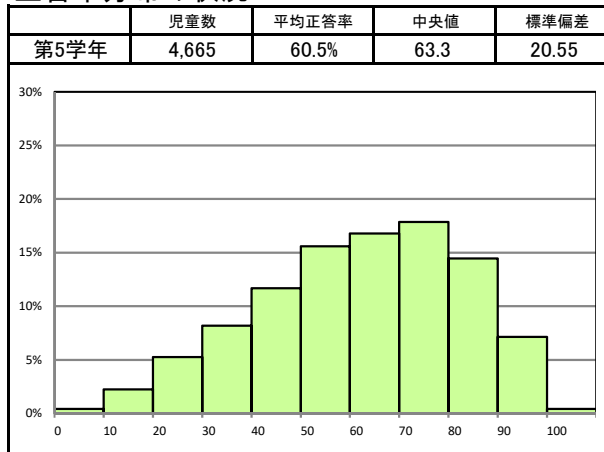
令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率 [小学校算数5年]

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連				評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					数と計算	図形	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1	1	(1)	整数のなかま分け	奇数について理解している。	○				○			○			78.2	0.2	80.0
2		(2)	整数のなかま分け	公倍数について理解し、それを求めることができる。	○				○			○			77.0	2.3	80.0
3	2		整数のなかま分け	最大公約数を適用して問題を解決している。	○				○			○		52.0	5.5	55.0	
4	3	(1)	分数と小数	小数を分数の形に直すことができる。	○				○			○		88.3	0.3	80.0	
5		(2)	分数と小数	分数と小数の大小比較をしている。	○				○			○		53.1	1.0	50.0	
6	4	(1)	小数のかけ算・わり算	小数第一位×小数第一位の計算ができる。	○				○			○		77.5	0.8	80.0	
7		(2)	小数のかけ算・わり算	小数第一位×小数第二位の計算ができる。	○				○			○		59.2	1.9	60.0	
8	5	(3)	小数のかけ算・わり算	小数第一位÷小数第一位=小数第二位(商が純小数)の計算ができる。	○				○			○		74.1	5.4	70.0	
9		(4)	分数のたし算・ひき算	真分数+真分数=真分数で、片方の分母にそろえる通分をする計算(約分あり)ができる。	○				○			○		84.4	3.4	80.0	
10		(5)	分数のたし算・ひき算	帯分数-真分数=真分数で、分母どうしをかける通分をする計算ができる。	○				○			○		66.7	5.6	65.0	
11	5		小数のかけ算・わり算	小数の乗法でも分配法則が成り立つことを理解している。	○				○			○		67.4	2.8	60.0	
12	6	(1)	小数のかけ算・わり算	図を見て、小数倍の文章問題(純小数倍、比較量を求める)を解くために乗法の立式をしている。	○				○			○		59.3	0.5	60.0	
13		(2)	小数のかけ算・わり算	図を見て、小数倍の文章問題(何倍かを求める)を解くために除法の立式をしている。	○				○			○		71.3	0.6	70.0	
14	7	式	小数のかけ算・わり算	文章問題を解くために小数の乗法の立式をしている。	○				○			○		78.1	2.3	75.0	
15		答え	小数のかけ算・わり算	文章問題を解くために立式した小数第一位×小数第一位=小数第一位の式から、正しい答えを求めることができる。	○				○			○		65.9	3.5	65.0	
16	8		小数のかけ算・わり算	小数第一位÷小数第一位の除法の式に合った文章問題を選んでいる。	○				○			○		50.7	1.0	45.0	
17	9	(1)	小数のかけ算・わり算	小数の除法(小数÷純小数)の文章問題を図に表している。	○				○			○		53.6	1.2	50.0	
18		(2)	小数のかけ算・わり算	図を使って、小数の除法の文章問題に合った式を選んでいる。	○				○			○		51.4	1.6	50.0	
19	10		体積	直方体を組み合わせた形の体積を求めることができる。		○			○			○		74.2	1.7	70.0	
20	11	(1)	図形の角	三角形の3つの角の和を理解し、2つの角の大きさから1つの外角の大きさを求めることができる。		○			○				○	65.2	3.3	60.0	
21		(2)	図形の角	図に示された五角形の内角の和の求め方を表す式を選んでいる。		○			○			○		55.9	2.0	40.0	
22	12		合同	合同な三角形を作図できる条件を理解している。		○			○			○		53.8	2.3	45.0	
23	13		合同	3辺の長さを使って、合同な三角形を作図することができる。		○			○			○		76.3	4.8	80.0	
24	14	(1)	単位量あたりの大きさ、比例	比例の関係を理解し、一方の値に対応する他方の値を求めることができる。			○		○			○		87.0	2.4	80.0	
25		(2)	単位量あたりの大きさ、比例	伴って変わる2つの量の関係を表した表を見て、比例関係にあるものを選ぶことができる。			○		○			○		80.2	2.7	75.0	
26	15	(1)	単位量あたりの大きさ、比例	表から面積と米の重さの割合を考え、どのクラスの田がよくとれたといえるのかを判断している。			○		○			○		65.3	3.7	60.0	
27		(2)	単位量あたりの大きさ、比例	ななみさんの式が何を求めているのかを理解し、どちらの田のほうがよくとれたといえるのかを説明している。			○		○			○		20.9	21.0	30.0	
28	16	(1)	体積	水そうの内のりから容積を求め、メダカ20匹を飼うことができることを説明している。		○			○			○		35.1	17.3	30.0	
29		(2)	体積	水そうに入れた水の体積から、水の深さを求める式を選ぶことができる。		○			○			○		48.7	14.9	40.0	
30		(3)	平均	平均から、残りのメダカの体長を求めることができる。				○	○			○		29.6	25.5	35.0	
31	17	(1)	平均	値に0があり、答えが小数になる分離量の平均を求めることができる。				○	○			○		67.4	13.9	60.0	
32		(2)	平均	平均から全体の量を推測することができる。				○	○			○		35.7	16.0	40.0	

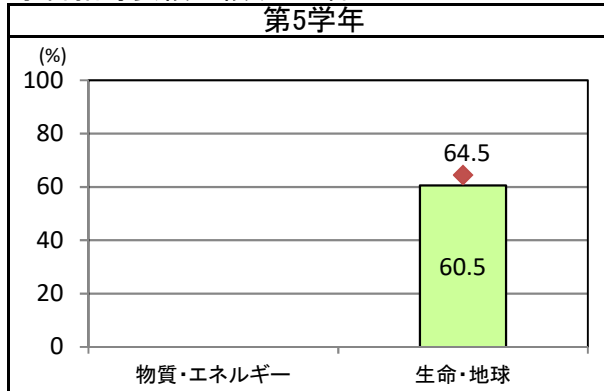
(3) 小学校理科

【分類・区分別の状況】 □ 高知県正答率 ◆ 目標値

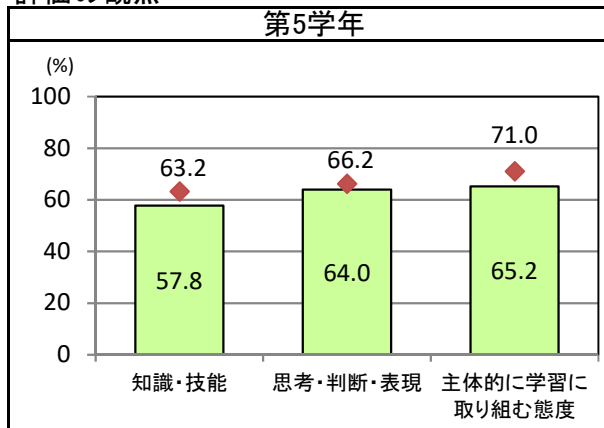
正答率分布の状況



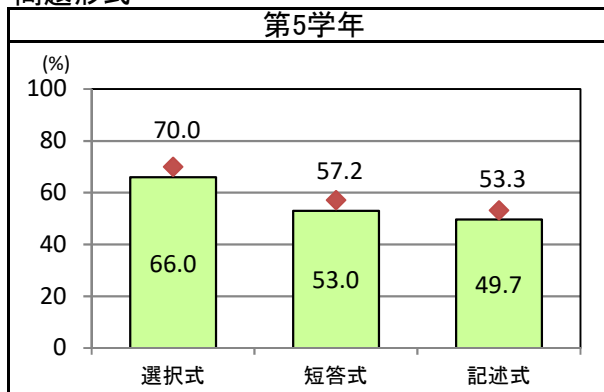
学習指導要領の領域・内容



評価の観点



問題形式



これまでの授業改善からみられる成果

植物の発芽、成長、結実の学習において、実験を計画したり、結果を推測したりすることに改善が見られている。このことより、条件制御の考え方を働かせながら実験を計画するような場面を意図的に組み込んでいることが考えられる。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
選択	3 (1)	B (2) ア(ア)	メダカの正しい飼育方法を身に付けている。	74.2	-10.8
選択	3 (4)	動物の誕生	たまごからかえったばかりのメダカの育ち方を理解している。	65.5	-9.5

メダカの飼育や育ち方についての理解に弱さがみられることから、飼育方法を検討したり、目的を明確にしたうえで観察をしたりすることができていないと考えられる。生物への影響を考慮する態度や、自然の事物・現象で見いだした疑問を解決するために観察を行うことなどを踏まえて、観察を構想する力を育成する指導には弱さがみられる。

授業改善のポイント

生物への影響に考慮しながら、児童が観察方法を計画する場面を設定する。

大問3は全て知識・技能としての出題である。ドリルなどで反復的に定着を図るだけでなく、問題解決の過程を踏まえた授業を行い、実感を伴った理解へとつなげることが大切である。

メダカなど生物の学習をするには、生物への影響に考慮したうえで、適切に観察を行うことが必要である。その際、子供たちに問いをもたせて、観察の目的を明確にすること、問いを解決するための観察計画を立てて妥当性を検討することなど、問題解決の過程を通して問題解決の力や生物愛護の態度を育成する指導を充実させることが重要である。

付けたい力

予想や仮説を基に、解決の方法を発想することができる。
～観察方法を計画する～



メダカを卵から大人になるまで育ててみたい。卵を生んでくれたらいいんだけど…。

水槽にいるメダカを見ると、違いがあるよ。



児童が比較しやすい事象(メダカ)を提示し、差異点や共通点を基に、問題を見いださせる。

問題 メダカはどのように産卵し、卵の中でどのように育つのだろうか



どんなことが予想されますか？
またそれを確かめるためには、どのような場面を観察するといいいですか？

Point
児童が観察方法を計画する場面を設定

日常生活や既習の内容などと関係付けながら、予想や仮説を発想させる。

《卵が生まれるまで》



オスとメスのメダカがいないと、子供のメダカは生まれないね。水槽には、見た目が違うメダカを入れたらいいと思う。



人間と同じで、生まれる前にはおなかが大きくなると思うから、生まれる目安になるんじゃないかな。



卵を生む場所はどこかな？私は、メダカは川に住んでいるから、川底の小石に生むと思う。



それなら、水槽の底の方を観察していただいいのかな。



観察対象となる生物(メダカ)に対しても気を付けることを明確にすることで、生物への影響を考慮した観察方法を検討させる。

《卵が生まれてから》
…

観察するメダカを大切に飼育するために、気を付けておかなければならないことも話し合ってみよう。

「平成30年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」事例3を加工して作成

事例3



令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率 [小学校理科5年]

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連		評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					物質・エネルギー	生命・地球	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1		(1)	植物の発芽と成長	対照実験で確かめられることを指摘できる。		○		○		○			61.3	0.2	65.0
2	1	(2)	植物の発芽と成長	種子の発芽の実験の結果を推測できる。		○		○		○			61.9	0.5	65.0
3		(3)	植物の発芽と成長	ヨウ素液について理解している。		○	○				○		70.7	5.7	75.0
4		(1)	植物の発芽と成長	植物の成長と日光の関係について指摘できる。		○		○		○			87.0	0.2	85.0
5	2	(2)	植物の発芽と成長	植物の成長に肥料が必要かを確かめる実験を計画することができる。		○		○			○		66.9	2.0	65.0
6		(3)	植物の発芽と成長	ホワイアスバラガスの育て方をもとに、アスパラガスが白くなる理由を推測できる。		○		○			○		51.4	7.1	55.0
7		(1)	魚のたんじょう	メダカの正しい飼育方法を身に付けている。		○	○			○			74.2	0.2	85.0
8		(2)	魚のたんじょう	メダカの雌雄の区別について理解している。		○	○			○			50.6	0.4	60.0
9	3	(3)①	魚のたんじょう	受精について理解している。		○	○				○		71.5	4.5	80.0
10		(3)②	魚のたんじょう	メダカのたまごの観察の仕方を身に付けている。		○	○			○			47.2	1.4	50.0
11		(4)	魚のたんじょう	たまごからかえったばかりのメダカの育て方を理解している。		○	○				○		65.5	6.3	75.0
12		(1)	天気の変化	台風の発生と進路について理解している。		○	○			○			70.1	0.7	75.0
13	4	(2)	天気の変化	台風の風による被害を指摘できる。		○		○	○	○			68.8	0.3	80.0
14		(3)①	天気の変化	台風が上陸しやすい時期をもとに、ダムの水位を減らす時期を推測できる。		○		○		○			55.8	1.0	55.0
15		(3)②	天気の変化	ダムの水位を減らしていても、台風の恵みによってダムに水を貯めることができることを説明できる。		○		○	○		○		77.6	5.1	75.0
16		(1)	植物の花のつくりと実	予想が正しいといえるための実験の結果を構想できる。		○		○		○			83.3	0.3	85.0
17	5	(2)①	植物の花のつくりと実	ヘチマの実になる部分を理解している。		○	○		○	○			57.9	1.3	75.0
18		(2)②	植物の花のつくりと実	受粉について理解している。		○	○				○		34.4	3.6	45.0
19		(3)	植物の花のつくりと実	アサガオの花粉とおしべの先のようすを理解している。		○	○			○			34.4	1.2	30.0
20		(1)①	流れる水のはたらき	水が曲がって流れているところの内側と外側の水の流れの速さの違いを理解している。		○	○			○			82.3	0.6	85.0
21	6	(1)②	流れる水のはたらき	水が曲がって流れているところの内側と外側のはたらきの違いを理解している。		○	○			○			78.1	0.6	85.0
22		(2)	流れる水のはたらき	流れる水のはたらきについて確かめる実験において、誤った実験の計画を改善できる。		○		○		○			67.7	1.0	70.0
23		(1)	流れる水のはたらき	運搬のはたらきを理解している。		○	○				○		58.8	11.0	60.0
24	7	(2)	流れる水のはたらき	読み取った資料をもとに、天井川のできやすいところを判断し、その理由を説明できる。		○		○			○		21.2	7.1	30.0
25		(1)	けんび鏡の使い方	顕微鏡の調節ねじの名称とはたらきを理解している。		○	○		○	○			71.6	1.7	70.0
26	8	(2)	けんび鏡の使い方	顕微鏡の倍率の求め方を理解している。		○	○				○		24.1	4.2	30.0
27		(3)	けんび鏡の使い方	顕微鏡の正しい使い方を身に付けている。		○	○			○			56.6	3.2	65.0
28		(1)	天気の変化	雲画像は気象衛星から送られてきた情報をもとに作成されていることを理解している。		○	○				○		34.0	9.0	30.0
29	9	(2)①	天気の変化	気象衛星の雲画像から、アメダスの雨量情報を指摘できる。		○		○		○			78.5	4.2	75.0
30		(2)②	天気の変化	雲の動きと天気の変化を結び付け、天気とそれに伴う売れる量をどのように予想できるか説明できる。		○		○	○		○		50.3	7.7	55.0

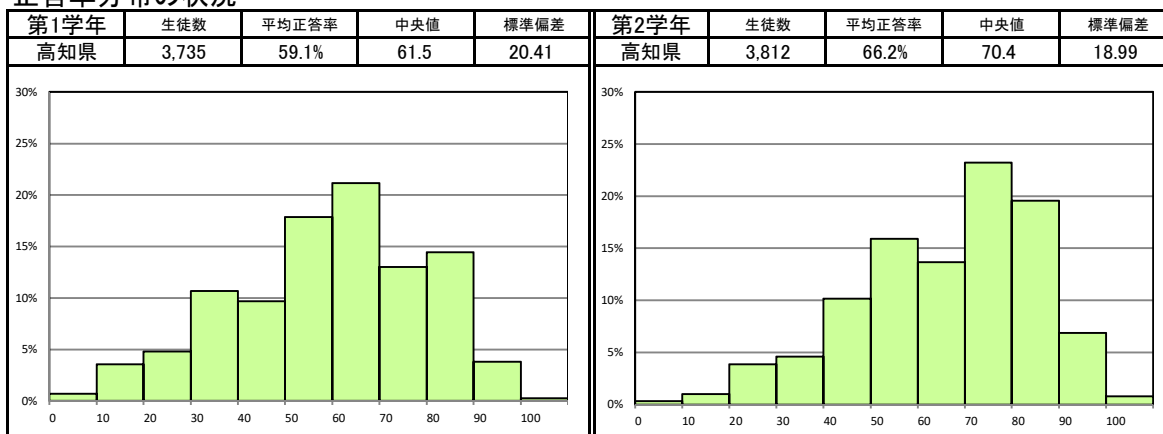
(4) 中学校国語

【分類・区別の状況】

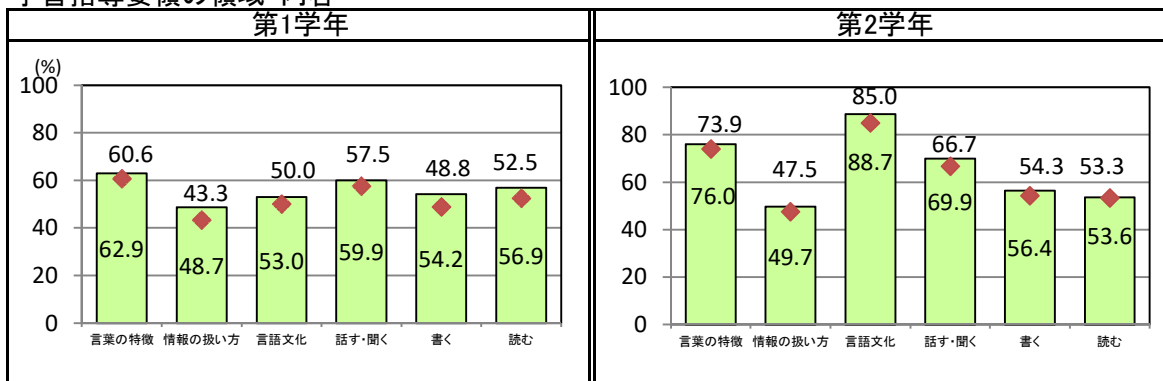
■高知県正答率

◆目標値

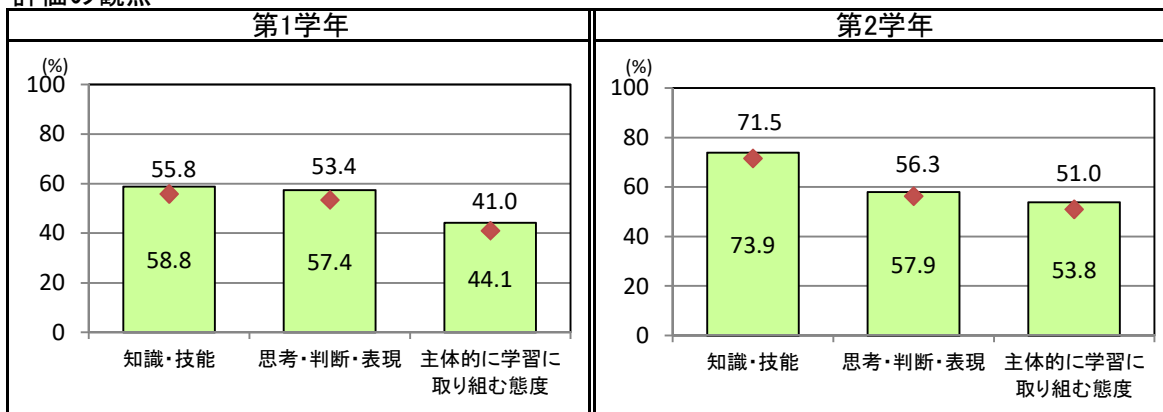
正答率分布の状況



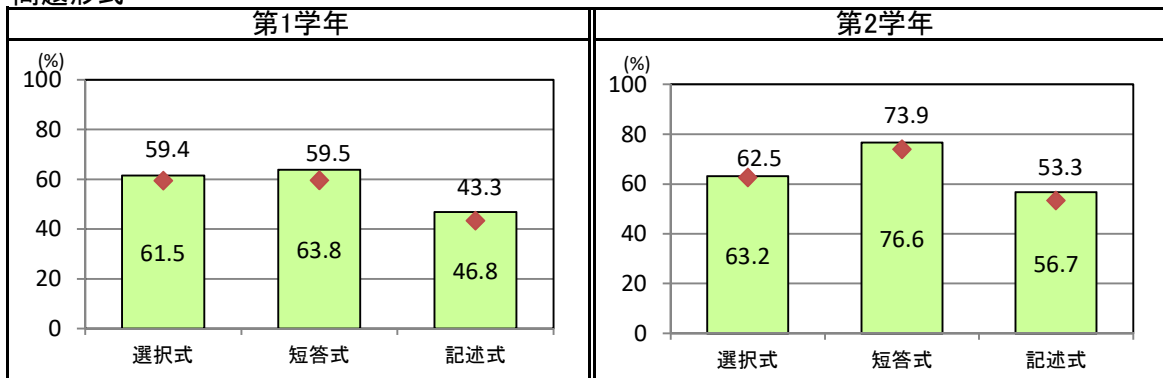
学習指導要領の領域・内容



評価の観点



問題形式



これまでの授業改善からみられる成果

言葉のまとまりの単位や単語の類別について理解できており、目標値より+20.1であった。例えば、小学校1年生に聞かせるつもりで文章を句切って読み、間をとった箇所を確認する活動や、複数の単語を組み合わせて文を作る活動などを取り入れて理解を図る指導の工夫や、帯タイムなどによる反復指導によって、定着につながっていると考えられる。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
記述	1 (3)	A (1) オ 話し合うこと	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。	28.7	-1.3

令和3年度高知県学力定着状況調査の課題でもあった、話し合いの内容を聞き取り、質問に答える内容（意見の理由）として適切な情報を資料から取り出して具体的に述べる事ができていない。話し合いの目的や話題に沿った情報に着目できていない解答が多く見られた。引き続き、話題や展開を捉えながら話し合う指導や、考えと資料（情報）を関連付けて話す指導の改善が必要である。

授業改善のポイント

話し合いの経過を可視化したり振り返ったりする活動や、目的を踏まえて、考えと資料（情報）の関係を検討する活動を取り入れる。

話題や展開を捉えながら話し合うためには、何についてどのような目的で話し合っているかを意識し、その経過を捉えて話したり聞いたりすることが大切である。例えば、ICTを活用し、話し合いの流れを可視化したり、話し合いの様子を録画して振り返ったりする活動が効果的である。また、資料から考えたことを述べる際には、話す内容と資料の整合に注意することが重要である。資料のどこに、なぜ着目したのか、そこからどのように考えたのかを明確にすることや、目的と考えや情報のつながりを検討する活動を取り入れることが考えられる。

付きたい力

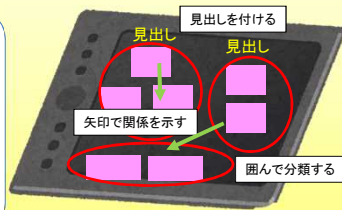
話題や展開を捉えながら話し合うことや、自分の考えを資料と関係付けて話すことができる。

話題や展開を捉えながら話し合う力を育成するために (ICTを活用した学習活動例)

資料と関係付けて話す力を育成するために

<例1> 付箋機能を使って、話を整理しながら話し合う。

- ポイント**
- 話し合いの話題と目的を明確にする。
 - 根拠や理由とともに意見を述べる。
 - これまでの意見と関係付け、共通点や相違点に着目して、整理する。



<単元の流れの例>

- ①話し目的やテーマを確認する。
- ②目的を意識して資料を読み、考えたことをまとめる。
 - ・資料から、「分かったこと」と「考えたこと」をメモに書き出す。
 - ・書き出したことの中から、最も（中心として）伝えたい考えを決める。

検討の観点

- 目的や話したいことに適した資料（情報）であるか
- 「分かったこと」は情報を正しく捉えているか
- 「考えたこと」は、本当にそのように考えることができるのか
- 目的と自分の考えのつながりは妥当か

<例2> 話し合いの様子を録画し、動画を用いて振り返る。

検討の観点

- 話し合いの目的や話題・展開を意識して話し合っているか
- 互いの発言を結び付けて考えをまとめているか

○○さんの発言は、話題からそれていたね。でも、その後、△△さんが、目的を確認する発言をしていたのがよかったよ。

それぞれの案のよいところをつないで、新しい案を考えることができているね。

③話の構成を考え、発表する。

ポイント

- 資料のどの部分から、どういったことを考えたのか明確にする。
- 「資料から分かったこと」と「自分の考え」を区別して話すようにする。（話の構成を考える。）

数字や、引用部分をはっきり話していたから、資料のどこに着目したのかが分かりやすかったよ。

「資料から分かったこと」と「自分の考え」が分かりやすいように、接続する語句や文末表現に気を付けて話したよ。

これまでの授業改善からみられる成果

昨年度調査より「自分の考えを明確にして書く」力が伸びており、目標値との差は+7.0であった。「書くこと」の授業において、多様な考えが出来る事柄について意見文を書く指導はもちろん、「話すこと」や「読むこと」の授業においても、自分の立場や考えを明確にして伝え合う指導がなされている成果だと考えられる。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	全国値との差
選択	5 (3)	C (1) I 読むこと 精査・解釈	文章の表現の効果について考えている。	57.0	-3.0

令和4年度全国学力・学習状況調査において「比喩」の理解に課題が見られた。本調査では、文章全体における表現の工夫として、「比喩」が効果的に使用されていることを捉えることができていない。その要因として、表現技法に関する指導の改善がまだ十分でなく、文学的な文章を読む授業において、描写の仕方や表現の工夫等に注目して、その効果を考える指導も不足していることが考えられる。

授業改善のポイント

表現の工夫を視点として読んだり、具体的な表現を基に文章の印象を伝え合ったりする活動を取り入れる。

表現の効果の指導においては、表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えさせることが重要である。また、表現技法の学習が、名称と用法の暗記に留まらず、その表現技法がどのような特徴をもつのかを理解し、使えるものに行うことが大切である。例えば、文学的な文章を読む学習において、「本の魅力を紹介しよう」という単元を設定し、「表現の工夫」を視点として読んだり、具体的な場面や表現を基に、作品の印象や特徴を伝え合ったりする学習活動を通して指導することが考えられる。

付きたい力

表現の仕方や描写の仕方、表現技法等に注目して、表現の効果について考えることができる。

単元例 本の魅力を紹介しよう～表現の効果について考える～

「表現の工夫」を視点として読みながら考える例

作品から受けた印象や特徴を基に考える例

平成29年度<中学校>全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた授業アイデア例P.5を加工して作成

例1 これまでに学習した「**比喩表現**」を「**本を読む際の視点**」として読み、感じたことや考えたことをノートに書き留め、交流しましょう。

比喩を用いた表現で特に印象に残ったのは、「興奮のあまり黒い目が濡れたように光って怖いぐらいだった」という部分で、ここから、自分の思い付きに心を躍らせている七葉の様子が分かったよ。麻子は、七葉の自由奔放さに戸惑っているのではないかな。

👉 比喩：「誰（何）」の「どのような」様子なのかを明確にする。

例2 教科書に載っている読書案内や新聞の書評などを読んで、気になった箇所を基に「**本を読む視点**」を決めましょう。「本を読む視点」に沿って読み、感じたことや考えたことをまとめて、本の魅力を紹介する文章を書きましょう。

「西園は猫である」 「吾輩は猫である。
夏目 漱石 名前はまだ無い。」

捨て猫である「吾輩」は中学校教師に拾われ、その家に住み着きます。そこで見附けた物事が「吾輩」によって語られます。鋭い風刺、歯切れのよい文体など、多くの読者を魅了するこの作品は、時代を超えて読み継がれています。

私は『吾輩は猫である』を紹介している文章の「**歯切れのよい文体**」という箇所に興味を持ったよ。今までに読んだ本と文体との違いを確かめてみたいな。

「この小説は〇〇な作品である」と、作品から受けた印象について紹介しましょう。

『走れメロス』は、**臨場感あふれる**作品だと感じたよ。

なぜそのように感じたのか、**描写や表現に着目して**考えましょう。

濁流の場面では、「濁流は、～せせり笑うごとく、～踊り狂う」や「百匹の大蛇のようにのたうち荒れ狂う波」などの擬人法や比喩が巧みに使われていて、濁流の激しさが目に浮かんでくるようだよ。「波は波をのみ、巻き、あおり立て」といった動詞のたたみかけからは、緊迫感が高まってくるね。

「わたしは、今宵、殺される。～自身をしかりながら走った。」の部分も、短い文のたたみかけや、「ために走るのだ」「～った」といった同じ言葉の繰り返しによって、文章に勢いやリズムがあり、メロスの心情の高まりがよく伝わってくるよ。心の中のことばがそのまま表現されていて、メロスの立場になったように引き込まれていくね。

👉 表現の工夫や効果について考えを話したり書いたりする際は、考えの根拠となる場面や表現を具体的に取り上げ（引用し）て述べるように指導する。

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率 [中学校国語1年]

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連						評価の観点			問題形式		高知県		目標値	
					言葉の特徴	情報の扱い方	言語文化	話す・聞く	書く	読む	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)		無解答率(%)
1	1	(1)	話し合いの内容を聞き取る	必要に応じて記録しながら話の内容を捉えている。				○				○				81.9	0.1	85.0	
2		(2)	話し合いの内容を聞き取る	自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考えている。				○				○				90.7	0.2	85.0	
3		(3)	話し合いの内容を聞き取る	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめている。				○				○	○			28.7	16.4	30.0	
4	2	(1) ①	漢字を読む	第1学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。	○							○				22.9	6.4	30.0	
5		(1) ②	漢字を読む	第1学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。	○							○				76.1	4.8	75.0	
6		(1) ③	漢字を読む	第1学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。	○							○				91.4	1.2	85.0	
7		(2) ①	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	○							○				69.1	6.9	70.0	
8		(2) ②	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	○							○				80.1	11.1	75.0	
9		(2) ③	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	○							○				61.8	16.2	65.0	
10	3	(1)	文法・語句に関する事項	漢字の部首について理解している。	○							○				60.2	0.8	60.0	
11		(2)	文法・語句に関する事項	単語について理解している。	○							○				65.1	1.2	45.0	
12		(3)	文法・語句に関する事項	歴史的仮名遣いについて理解している。			○					○				53.0	10.5	50.0	
13		(4)	文法・語句に関する事項	ことわざについて理解している。	○							○				39.1	0.6	40.0	
14	4	(1)	説明的な文章の内容を読み取る	文章の内容について叙述を基に捉えている。						○		○				46.3	0.5	45.0	
15		(2)	説明的な文章の内容を読み取る	情報と情報との関係について理解し、必要な情報に着目して、内容を解釈している。		○				○	○		○			59.8	7.7	50.0	
16		(3)	説明的な文章の内容を読み取る	文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えている。						○	○		○			56.4	1.2	50.0	
17	5	(1)	文学的な文章の内容を読み取る	登場人物の心情について、描写を基に捉えている。						○		○				69.9	1.3	65.0	
18		(2)	文学的な文章の内容を読み取る	表現の効果について、根拠を明確にして考えている。						○		○				58.4	1.3	55.0	
19		(3)	文学的な文章の内容を読み取る	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。						○		○				50.8	1.4	50.0	
20	6	(1)	職場体験の話を書く	自分の考えが明確になるように話の構成を考えている。				○				○				71.5	3.1	65.0	
21		(2)	職場体験の話を書く	情報と情報との関係について理解し、共通点を踏まえて話の内容を捉えている。		○		○				○	○			50.9	8.8	45.0	
22		(3)	職場体験の話を書く	情報と情報との関係について理解し、必要に応じて質問しながら話の内容を捉えている。		○		○				○	○	○		35.4	18.6	35.0	
23	7		文章を書く	指定された長さで文章を書いている。					○			○	○			60.8	21.1	55.0	
24			文章を書く	2段落構成で文章を書いている。					○				○			60.5	21.1	55.0	
25			文章を書く	読み取った内容を明確にして書いている。					○		○		○			50.2	21.1	45.0	
26			文章を書く	自分の考えを明確にして書いている。					○		○	○		○		45.4	21.1	40.0	

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率〔中学校国語2年〕

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連						評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					言葉の特徴	情報の扱い方	言語文化	話す・聞く	書く	読む	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1		(1)	話の内容を聞き取る	論理の展開に注意して、話し手の考えを聞いている。				○				○		○			91.6	0.1	85.0
2	1	(2)	話の内容を聞き取る	資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫している。				○				○		○			67.9	0.3	65.0
3		(3)	話の内容を聞き取る	論理の展開に注意して、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめている。				○				○	○		○		50.2	11.8	50.0
4		(1) ①	漢字を読む	第2学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。	○							○			○		82.2	1.3	75.0
5		(1) ②	漢字を読む	第2学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。	○							○			○		83.3	2.9	85.0
6		(1) ③	漢字を読む	第2学年までに学習した漢字を正しく読んでいる。	○							○			○		98.6	0.6	90.0
7	2	(2) ①	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	○							○			○		80.7	4.0	80.0
8		(2) ②	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	○							○			○		45.1	15.2	45.0
9		(2) ③	漢字を書く	小学校で学習した漢字を正しく書いている。	○							○			○		62.8	16.4	65.0
10		(1)	文法・語句に関する事項	文の成分について理解している。	○							○			○		79.4	0.3	75.0
11		(2)	文法・語句に関する事項	敬語について理解している。	○							○			○		70.8	0.4	75.0
12	3	(3) ①	文法・語句に関する事項	歴史的仮名遣いについて理解している。			○					○			○		85.3	1.9	80.0
13		(3) ②	文法・語句に関する事項	現代語訳を手掛かりに古典を読んでいる。			○					○			○		92.1	3.2	90.0
14		(4)	文法・語句に関する事項	故事成語について理解している。	○							○			○		81.4	0.2	75.0
15		(1)	説明的な文章の内容を読み取る	文章全体と部分との関係に注意しながら内容を捉えている。								○	○		○		45.7	0.4	45.0
16	4	(2)	説明的な文章の内容を読み取る	情報と情報との関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を解釈している。	○							○	○		○		59.1	7.8	55.0
17		(3)	説明的な文章の内容を読み取る	文章全体の中における段落の役割について捉えている。								○	○		○		44.1	1.1	45.0
18		(1)	文学的な文章の内容を読み取る	登場人物の言動の意味について考えて、内容を解釈している。								○	○		○		72.1	0.6	70.0
19	5	(2)	文学的な文章の内容を読み取る	文章を読んで考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを深めている。								○	○		○		43.5	0.6	45.0
20		(3)	文学的な文章の内容を読み取る	文章の表現の効果について考えている。								○	○		○		57.0	0.8	60.0
21		(1)	調べたことをもとにレポートを書く	伝えたいことが分かりやすく伝わるように、文章の構成を工夫している。								○	○		○		44.7	1.0	50.0
22	6	(2)	調べたことをもとにレポートを書く	読み手の立場に立って、表現の効果を確認している。								○	○		○		60.2	1.2	60.0
23		(3)	調べたことをもとにレポートを書く	情報と情報との関係について理解し、読み手からの助言を踏まえ、自分の文章の改善点を見いだしている。	○							○	○	○		○	40.2	17.5	40.0
24			文章を書く	指定された長さで文章を書いている。								○	○		○		70.7	14.5	65.0
25	7		文章を書く	2段落構成で文章を書いている。								○	○		○		71.1	14.5	65.0
26			文章を書く	読み取った内容を明確にして書いている。								○	○		○		46.0	14.5	45.0
27			文章を書く	自分の考えを明確にして書いている。								○	○		○		62.0	14.5	55.0

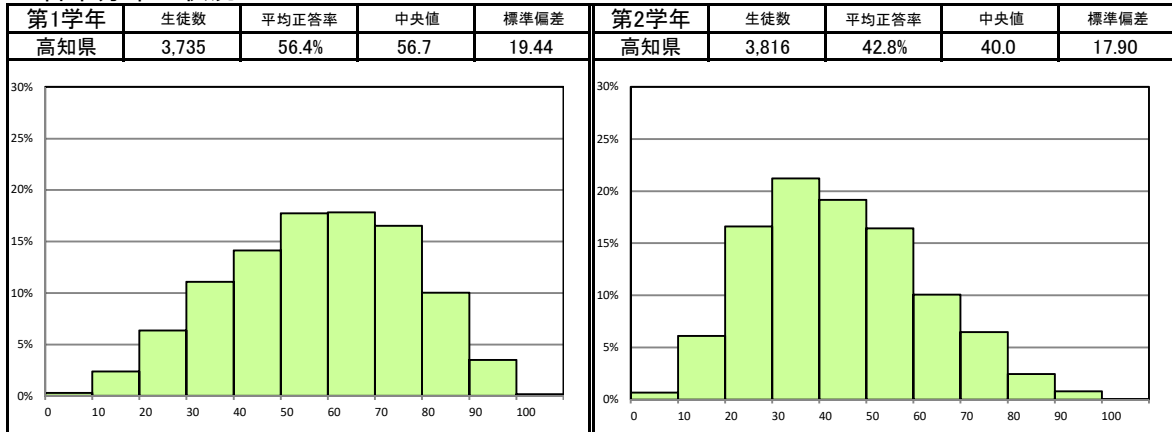
(5) 中学校社会

【分類・区別の状況】

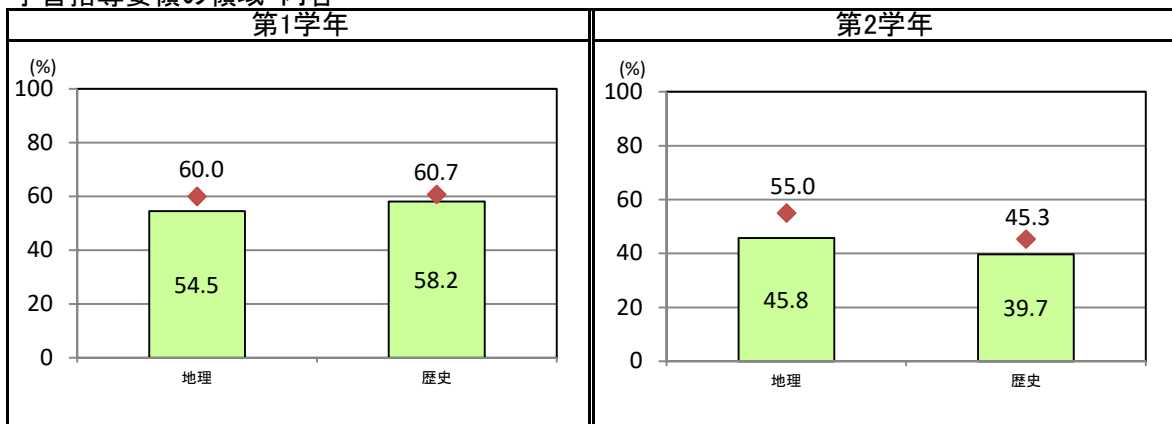
■高知県正答率

◆目標値

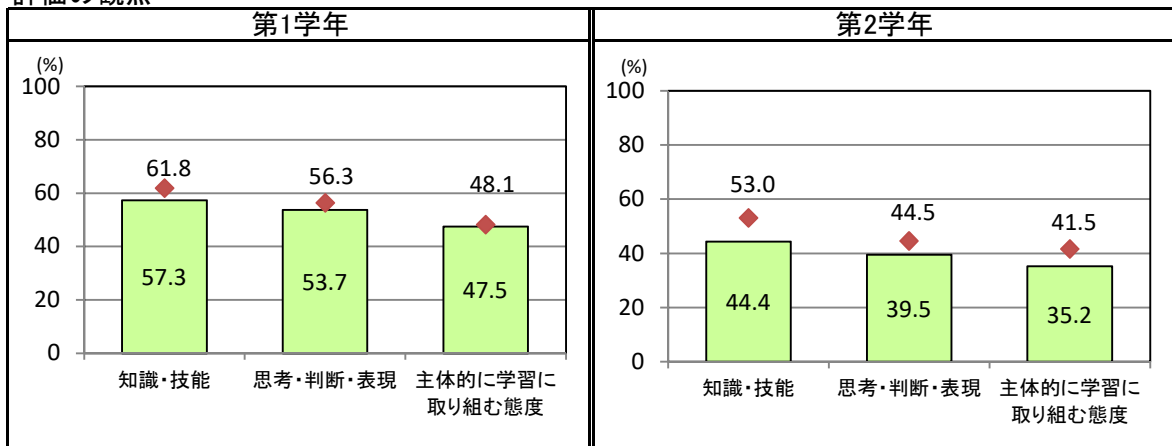
正答率分布の状況



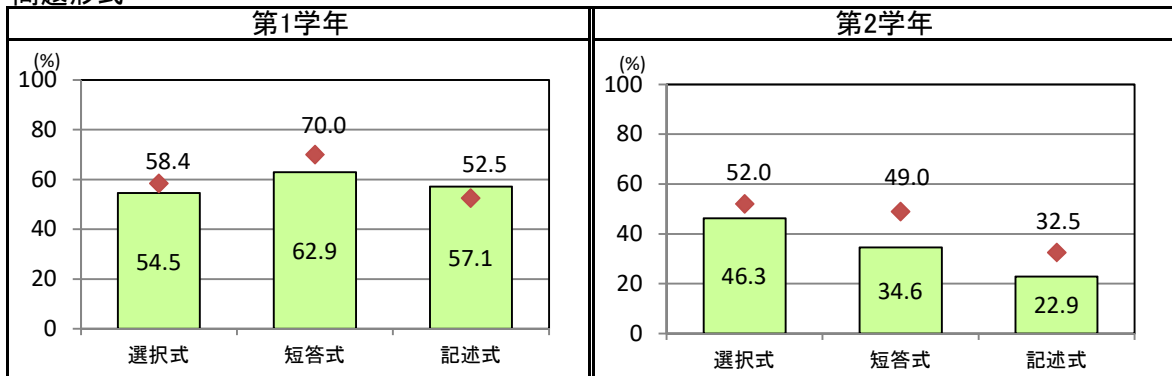
学習指導要領の領域・内容



評価の観点



問題形式



これまでの授業改善からみられる成果

歴史的な分野において、人々の生活や文化の特色に関する知識が定着していることがうかがえる。課題解決的な学習過程を設定する中で、小学校での既習の知識を踏まえながら、時代の特色（当時の社会、文化など）についての理解が進んだと考えられる。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
選択	4 (1) ②	地理B(2) 世界の諸地域①	中国の経済格差について考察している。	55.9	-14.1

中国の経済格差を示す資料を複数の資料から選択するにあたり、情報を読み取り、考察する力に課題がみられた。地図やグラフなどの様々な資料から情報を正確に読み取る力、それらを根拠にして考察する力を育成する指導を再考する必要がある。

授業改善のポイント

資料から情報を正しく読み取り、考察する学習活動の充実を図る。

課題の追究・解決を図る過程において、根拠となる資料を選択・収集する力を向上させるためには、様々な種類の資料（地図、グラフ、表、図等）から情報を社会的な見方・考え方に沿って読み取る技能が必要となる。情報全体の傾向を読み取る、必要な情報を選んで読み取る、複数の情報を見比べたり結び付けたりする活動を意図的・計画的に設定して、生徒の学習状況に応じて指導を行う。

付けたい力

課題の追究・解決を図る過程において、根拠となる資料を選択・収集することができる。

資料から情報を読み取り、考察する場面

資料（地図、グラフ、表、図など）から正しく読み取った情報を根拠として考察する。
 ◎社会的な見方・考え方を働かせ、学習した用語を使って表現する。



1. 北アメリカの気温と降水量の分布図から、気候の特徴を挙げてみましょう。
 2. アメリカとカナダの農業地域を示した地図を、1の分布図の気候との関係に注目して見てみましょう。

1. 西部では、降水量が500mm未満の地域が広がっているね。乾燥している地域なんだね。



1. 北緯40度より南は2000mm以上で、降水量が多いね。西経100度から東側も降水量が多いね。

2. 暖かくて降水量が1000mmから2000mm未満の南東部で、棉花が作られているんだね。地形・気候に合わせて農業をしていることが分かった。

根拠となる資料を収集する場面

資料の種類や特性に応じて、適切な資料や情報を選択・収集する。



南アメリカの農業の特色を知るためには、どのような資料があれば、あればよいでしょうか？

農業の分布図がほしいな。主な農作物の生産量のグラフもないかな。図書館の本やインターネットで探してみよう。



ブラジルのコーヒー豆が有名だね。生産量の変化も知りたいから、30年間分ぐらいのグラフがあるといいけど、数値のデータがあれば、タブレットでグラフにできるかな。



★ワンポイントアドバイス★
 地球儀や世界地図を教室に置いておくと、いつでも見たり触れたりできて、知識の定着につながります！



次のサッカーワールドカップは、カナダ、アメリカ、メキシコの3カ国で開かれるそうだよ。



この前学習した北アメリカ州で行われるんだね。楽しみだね。



これまでの授業改善からみられる成果

まとめの文章から考察する問題において目標値を上回るものがあり、社会的事象の背景や要因から結果・影響を考えたりするなど、多面的・多角的に考察する学習活動が設定されていることがうかがえる。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
短答	3 (1)	歴史 B (3) 近世の日本 (7) 世界の動きと統一事業	ローマ教皇について理解している。	20.3	- 14.7

日本の社会や文化に影響を与えるヨーロッパ諸国の動きについての理解が不十分であることがうかがえる。基礎的・基本的な知識や概念的な知識の理解が図られるよう、学習過程や手立てを工夫・改善する必要があり、世界の動きと関連させて歴史的事象の特色を理解させることが重要である。

授業改善のポイント

基礎的・基本的な知識を繰り返し活用する場面を設定することにより知識の定着を図る。

課題解決的な学習過程の追究・解決の場面で、既習の知識に加えて、新たに獲得した知識を繰り返し活用する場面を設定する。その際には、時間の経過、諸事象の推移、事象相互のつながり（背景・原因・結果・影響等）などの歴史的な見方・考え方を働かせているかどうかを見取り、不十分な場合には、問い返しを行ったり、さらに調べさせたりするなどの手立てを行う。

付けたい力

個別の社会的事象の知識と概念的な知識を理解することができる。

【単元を貫く問い】 江戸幕府の政治改革は、なぜ繰り返されたのだろう。

課題追究（調べる）

事実に基づく知識を繰り返し活用することにより、定着を図る。

幕府政治について調べたこと

人物	徳川 吉宗	田沼 意次	松平 定信
内容	一定の年貢を取る 公事方御定書を定める	株仲間を増やす 長崎貿易での輸出	米の生産と蓄え 出版物の統制
結果	一時的に収入が増える 米の価格上昇→打ちこわし	政治の乱れに批判 ききん→一揆・打ちこわしが増える	厳しい取りしまりに不満 →辞職

江戸幕府は、財政難に対して、どのような対策を行ったのでしょうか。

株仲間を増やすことは、どんなことに期待したのかな？

田沼意次は、株仲間を増やし、長崎貿易を活発にしました。

株仲間から税を徴収して、幕府の収入を増やそうとしました。

獲得した知識を共有・整理

幕府の政治と百姓・町人の暮らしにはどんな関わりがみられるのかな？
みんなで整理・確認してみましょう。

民衆の暮らしについて調べたこと

農村では、肥料や農具を買うために、貨幣の使用が広がり、自給自足の生活から変化していったんだね。貧富の差が大きくなったよ。

ききんが起きたときに、一揆が増えているね。年貢を減らすように要求したんだね。

課題解決（まとめる）

概念的な知識の理解につなげ、各時代の特色をつかむ。

【単元を貫く問い】に対する答えを、学習した内容を活用してまとめましょう。

吉宗、田沼意次、松平定信、水野忠邦が改革などを繰り返したけれど…ききんが起ったり反対にあったりして、上手くいかなかったんだね。

貨幣が農村に広がったことも関係していることが分かったよ。天災が続くなかで、農民たちの生活も苦しかったんだね。暮らしはよくなっていくのかな。

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率 [中学校社会1年]

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連		評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					地理	歴史	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1	1	(1)	世界の姿	面積を正しく表した地図の特徴について理解している。	○		○			○			29.9	0.1	30.0
2		(2)	世界の姿	大陸の分布と世界の地域区分について理解している。	○		○			○			80.4	0.0	85.0
3		(3)	世界の姿	インド洋の位置と名称について理解している。	○		○				○		70.5	1.3	75.0
4		(4)	世界の姿	緯度と経度についての理解をもとに、地図を読み取っている。	○		○		○	○			57.2	0.2	55.0
5	2	(1)①	日本の姿	日本の領土について理解している。	○		○			○			25.8	0.1	40.0
6		(1)②	日本の姿	日本の領域をめぐる問題について理解している。	○		○			○			75.6	0.0	85.0
7		(2)①	日本の姿	時差についての理解をもとに、地図を読み取っている。	○		○		○	○			46.4	0.1	55.0
8		(2)②	日本の姿	日本の領海や排他的経済水域について考察している。	○			○		○			47.7	0.2	55.0
9	3	(1)	世界各地の人々の生活と環境	世界のさまざまな気候について、資料をもとに考察している。	○			○	○	○			43.7	0.1	40.0
10		(2)	世界各地の人々の生活と環境	乾燥した地域で暮らす人々の衣服と自然環境を関連づけて考察している。	○			○		○			50.6	0.0	55.0
11		(3)	世界各地の人々の生活と環境	寒い地域で暮らす人々の生活について理解している。	○		○			○			83.2	0.0	85.0
12	4	(1)①	世界の諸地域	中国の経済発展について理解している。	○		○				○		55.3	4.4	75.0
13		(1)②	世界の諸地域	中国の経済格差について考察している。	○			○		○			55.9	0.2	70.0
14		(2)	世界の諸地域	東南アジアの経済発展についての理解をもとに、資料を読み取っている。	○		○		○	○			55.8	0.2	55.0
15	5	(1)①	古墳時代まで	年代の表し方について理解している。		○	○			○			54.8	0.3	50.0
16		(1)②	古墳時代まで	世界の古代文明(エジプト文明)について理解している。		○	○			○			52.0	0.5	55.0
17		(2)	古墳時代まで	狩猟・採集を行っていた人々の生活について理解している。		○	○				○		74.1	8.8	80.0
18		(3)	古墳時代まで	農耕の広まりによる生活の変化について、資料をもとに考察している。		○		○		○			78.2	0.4	80.0
19		(4)	古墳時代まで	渡来人について理解している。		○	○				○		70.4	7.4	75.0
20	(5)	古墳時代まで	大和政権による統一の様子について、資料を読み取っている。		○	○				○		62.0	0.6	65.0	
21	6	(1)	飛鳥時代～平安時代	聖徳太子の政治について理解している。		○	○			○			56.6	0.6	60.0
22		(2)	飛鳥時代～平安時代	元号について理解している。		○	○				○		83.5	5.5	85.0
23		(3)①	飛鳥時代～平安時代	東アジアの影響を受けて平城京が造られたことについて理解している。		○	○			○			40.2	0.6	45.0
24		(3)②	飛鳥時代～平安時代	奈良時代の土地の制度について理解している。		○	○			○			61.3	0.7	65.0
25		(4)	飛鳥時代～平安時代	国際的な要素をもった文化の特徴について理解している。		○	○			○			53.5	1.4	50.0
26		(5)①	飛鳥時代～平安時代	藤原氏による摂関政治について、資料をもとに考察し、表現している。		○		○	○		○		74.1	11.0	65.0
27	(5)②	飛鳥時代～平安時代	文化の国風化が進んだことについて理解している。		○	○			○			49.5	0.8	60.0	
28	7	(1)①	飛鳥時代～平安時代	日本と東アジアとのかかわりについての理解をもとに、複数の地図を読み取っている。		○	○		○		○		23.3	2.4	30.0
29		(1)②	古墳時代まで	農耕が広まったころの日本と東アジアとのかかわりについて、資料をもとに考察している。		○		○	○	○			39.7	1.7	45.0
30		(2)	世界の諸地域	南アジアの産業について、複数の資料をもとに考察し、表現している。	○		○	○			○		40.1	15.9	40.0

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率 [中学校社会2年]

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連		評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					地理	歴史	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1	1	(1)	日本の地域的特色と地域区分	日本の地形の特色について理解している。	○		○			○			57.1	0.1	70.0
2		(2)	日本の地域的特色と地域区分	日本の海洋の特色について理解している。	○		○				○		29.7	19.7	55.0
3		(3)	日本の地域的特色と地域区分	日本の7地方区分についての理解をもとに、日本の人口に関する資料を読み取っている。	○		○		○	○			37.9	0.2	45.0
4		(4)	日本の地域的特色と地域区分	日本の農業の特色についての理解をもとに考察している。	○			○		○			39.3	0.4	45.0
5		(5)	日本の地域的特色と地域区分	日本の資源・エネルギーについて理解している。	○		○			○			68.8	0.3	75.0
6		(6)	日本の地域的特色と地域区分	日本の工業の特色について、産業の空洞化に関する理解をもとに資料に着目して考察している。	○			○	○	○			38.1	0.5	40.0
7		(7)	日本の地域的特色と地域区分	日本の交通網の特色についての理解をもとに、資料を読み取っている。	○		○		○	○			41.5	0.4	50.0
8	2	(1)	日本の諸地域	中国・四国地方の気候の特色について理解している。	○		○				○		43.7	5.0	70.0
9		(2)	日本の諸地域	近畿地方の都市開発について理解している。	○		○			○			52.2	0.4	65.0
10		(3)	日本の諸地域	近畿地方の歴史的景観の保全について、まとめの内容をもとに考察している。	○			○		○			82.3	0.3	80.0
11		(4)	日本の諸地域	九州地方の農業の特色について、資料に着目して考察し、表現している。	○			○	○			○	19.8	19.1	35.0
12		(5)	日本の諸地域	九州、中国・四国、近畿地方にある地域の特色について理解している。	○		○			○			66.4	0.3	70.0
13		(6)	日本の諸地域	九州、中国・四国、近畿地方の工業の特色について理解している。	○		○			○			34.6	0.5	45.0
14	3	(1)	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	ローマ教皇について理解している。		○	○				○		20.3	19.4	35.0
15		(2) ①	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	ルネサンスについて理解している。			○	○			○		25.6	0.4	30.0
16		(2) ②	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	新航路の開拓について理解している。			○	○			○		53.3	0.5	55.0
17		(3)	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	桃山文化の特色について理解している。			○	○			○		32.2	0.5	40.0
18		(4)	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	織田信長の統一事業について理解している。			○	○			○		67.6	1.0	75.0
19		(5) ①	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	豊臣秀吉の統一事業について理解している。			○	○			○		39.4	18.0	50.0
20		(5) ②	ヨーロッパ人との出会いと全国統一	豊臣秀吉のキリスト教への対応について、複数の資料に着目して考察している。			○		○	○			26.5	0.6	35.0
21	4	(1) ①	江戸時代	江戸時代の幕藩体制について資料を読み取っている。			○	○			○		24.4	1.0	30.0
22		(1) ②	江戸時代	江戸幕府の大名統制について、資料に着目して考察している。			○		○	○			56.7	1.3	65.0
23		(2)	江戸時代	江戸幕府の対外関係について、琉球の役割について理解している。			○	○			○		45.4	1.5	50.0
24		(3) ①	江戸時代	江戸幕府の仕組みについて理解している。			○	○			○		66.0	1.2	70.0
25		(3) ②	江戸時代	江戸幕府の政治改革について理解している。			○	○			○		42.1	1.5	45.0
26		(3) ③	江戸時代	打ちこわしについて理解している。			○	○			○		39.9	15.0	35.0
27		(4)	江戸時代	三都の繁栄や海運の発達についての理解をもとに、資料に着目して考察している。			○		○	○			30.7	1.5	35.0
28	5	(1)	江戸時代	江戸時代の農業の発達について、複数の資料に着目して考察し、表現している。			○		○	○		○	25.9	14.4	30.0
29		(2)	日本の地域的特色と地域区分	日本の農業生産の特色について、複数の資料に着目して考察している。	○			○	○	○			39.9	2.8	40.0
30		(3)	日本の諸地域	九州、中国・四国、近畿地方の工業の特色について、複数の資料に着目して考察している。	○			○	○	○			35.5	3.3	40.0

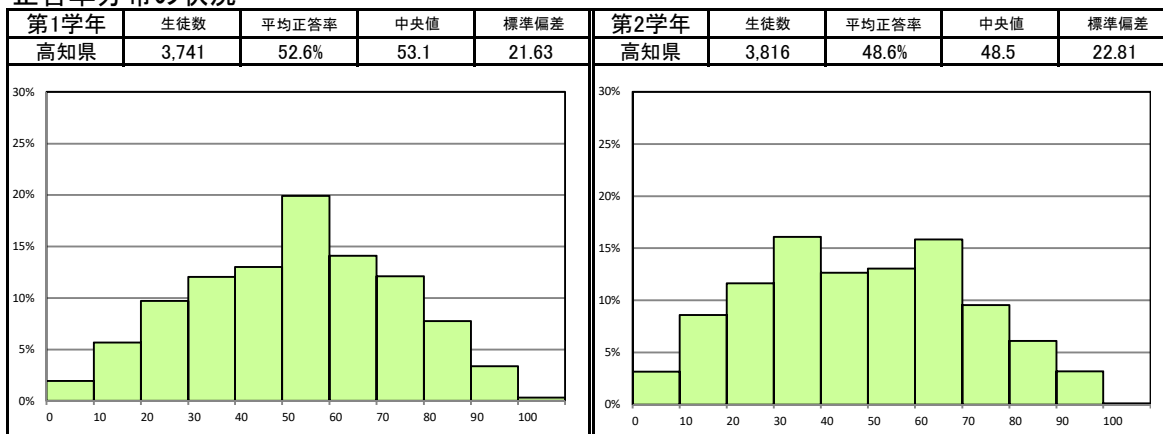
(6) 中学校数学

【分類・区別の状況】

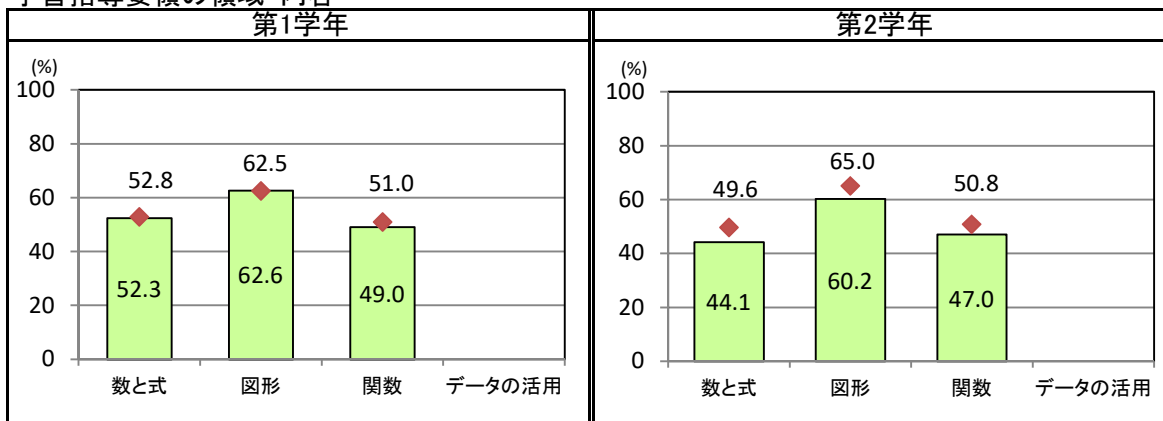
■高知県正答率

◆目標値

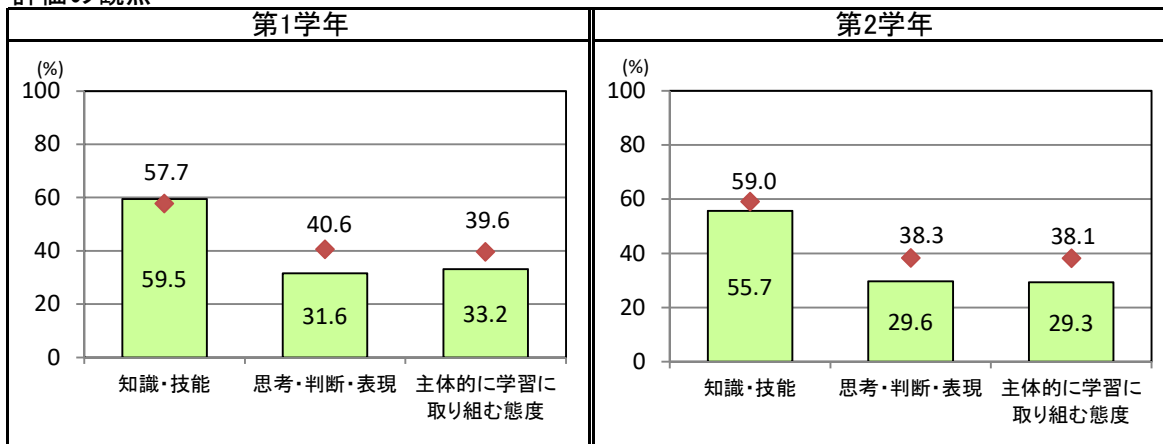
正答率分布の状況



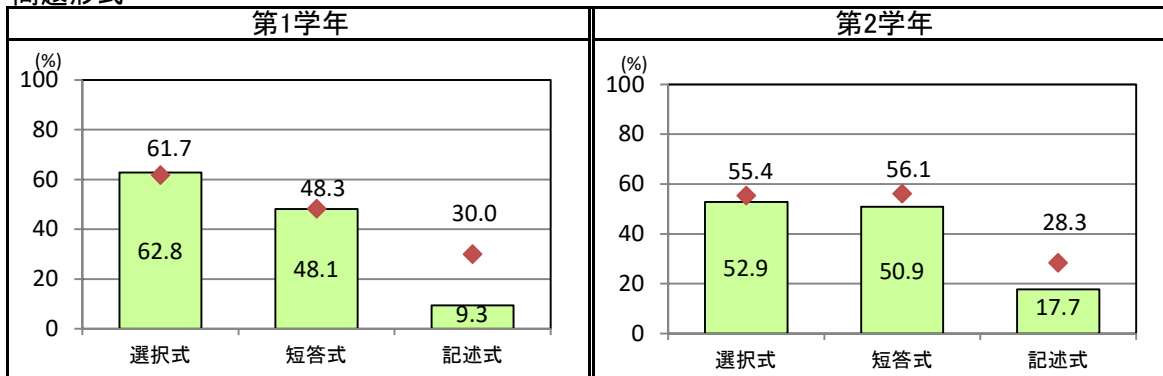
学習指導要領の領域・内容



評価の観点



問題形式



これまでの授業改善からみられる成果

全体的に、目標値に近づいた問題が増えている。知識・技能の観点別正答率では、目標値を超えている。素因数分解など学力調査結果からみられた課題の改善を図る学校の取組が、進みつつある成果だと考える。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
短答	9 (2)	A (3) イ (イ) 一元一次方程式	文章問題を解くための方程式を立式することができる。	8.4	-21.6

道のりを x として、行きの分速と帰りの分速が異なる場面、その道のりと時間との関係から、方程式を立式する力が十分ではないと考える。また、速さ、道のり、時間についての関係を捉えることができていないことも考えられる。

授業改善のポイント

小学校からの接続を生かした指導を重視し、既習の考えを使って式で表す活動を意図的に取り入れ、意味理解を図る。

問題場面から速さ、道のり、時間を、公式によって求めるだけでなく、数量の関係を捉えて式に表すことができるようにすることが重要である。既習の考えを生かしながら、問題場面を線分図に表したり、等しい関係をみつけたり、求めたい数量 x が何を表しているのかを言葉で説明したりする活動を、意図的に繰り返し、数量の意味理解を図りながら、定着させることが必要である。

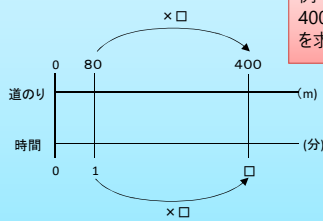
付きたい力

問題場面から、事象の関係を式で表すことができる。

小学校からの接続を生かした指導を重視し、既習の考えを使って、式で表す活動を意図的に取り入れ、意味理解を図る。

小学校第5学年：速さ、道のり、時間の関係を捉える場面

道のりと時間の関係を下の図のように、数直線に表し、それぞれの関係を確認する活動をしている。その際、求めたい時間を \square として、数直線上に表された比例の関係を基に、 $80 \times \square = 400$ という式に表し、乗法と除法の相互関係から $\square = 400 \div 80$ と表すことを大切にしている。



★小学校第6学年から移行
例：分速80mのときの道のりが400mであるときにかかった時間を求める

ポイント

数量関係を捉え、表や線分図で整理して、式に表す活動を、意図的に取り入れ、生徒自身ができるようにすること

中学校第1学年：数量関係を文字を使った式で表す場面

a kmの道のりを歩くのに2時間かかった。このときの速さは、 $a \div 2$ で、 $\frac{a}{2}$ (km/h)



速さは、1単位時間に進む道のりで表されるものだね。

中学校第1学年：一次方程式を活用する場面
・方程式は、変数（未知数）を含んだ相当関係についての条件を表した等式である



(弟が歩いた道のり) = (兄が歩いた道のり) という関係から式がつけられるね。

	弟	兄
速さ(m/min)		
時間(分)		
道のり(m)		

中学校第2学年：連立方程式を活用する場面

これまでの授業改善からみられる成果

同一集団の経年比較では、向上がみられる。変化の割合の意味を理解し、変化の割合を求める問題や、成り立つ事柄を数学的に表現する問題などで、目標値を+5ポイント以上、上回っており、全国学力・学習状況調査の課題の改善を図る取組が、成果につながったものとする。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
記述	16 (2)	A (1) イ (イ) 文字を用いた式	各位の数の和が3である3けたの自然数は、3の倍数であることの説明を完成させることができる。	13.2	-16.8

16 (1) の説明を読み、式の意味を示すことができる問題の正答率が県30.4%であることから、本問の前半部分である説明を読むことが理解できていないと考えられる。また、同じように予想した事柄について、既に説明された記述を参考にして説明を完成させることも、十分ではないと考えられる。

授業改善のポイント

解決過程 (説明) を振り返り、式を用いて論理的に説明する場を設定する。

数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由を数学的に説明すること、さらに、問題の条件を変えるなどして、統合的・発展的に考察することが大切である。また、予想された事柄について解決過程を振り返り、見いだした事柄を拡張して考えることで、統合的・発展的に考察する機会を設けることも必要である。見いだした事柄について、基の説明を読んで、変わる場所、変わらない場所に着目させながら、数学的に説明する活動が効果的である。

付けたい力

解決過程 (説明) を振り返り、統合的・発展的に考察し説明できる。

① 十の位の数と一の位の数の和が6である2けたの自然数の性質を調べる。

十の位の数と一の位の数の和が6	2けたの自然数
1 + 5 = 6	15 = 3 × 5
5 + 1 = 6	51 = 3 × 17
2 + 4 = 6	24 = 3 × 8
⋮	⋮

予想: 「十の位の数と一の位の数の和が6である2けたの自然数は、3の倍数になる。」

2けたの自然数の十の位の数を a 、一の位の数を b とすると、この自然数は $10a + b$ と表すことができる。
十の位の数と一の位の数の和が6だから、 $a + b = 6$ より $b = 6 - a$
 $10a + b = 10a + (6 - a)$
 $= 9a + 6$
 $= 3(3a + 2)$
 $3a + 2$ は整数だから、 $3(3a + 2)$ は3の倍数である。
したがって、十の位の数と一の位の数の和が6である2けたの自然数は、3の倍数である。

3(3a+2)の式は、どんなことを表していますか。

十の位の数 a に3をかけて、2をたした数を3倍した数といえるね。



ポイント

ポイント

2けたの自然数の説明と比較し、変わる場所、変わらないところに着目して、見直しをもって説明すること

3けたの自然数でも同じような予想が成り立つのでは・・・?

② 2けたの自然数の説明を振り返り、統合的・発展的に考察する。

3けたでは、説明のどの部分を変えれば、よいか。

3けたの自然数の百の位の数を a 、十の位の数を b 、一の位の数を c とすると、この自然数は $100a + 10b + c$ と表すことができる。
各位の数の和が6だから、 $a + b + c = 6$ より $c = 6 - a - b$
 $100a + 10b + c = 100a + 10b + (6 - a - b)$
 $= 99a + 9b + 6$
 $= 3(33a + 3b + 2)$
 $33a + 3b + 2$ は整数だから、 $3(33a + 3b + 2)$ は3の倍数である。
したがって、各位の数の和が6である3けたの自然数は、3の倍数である。

これまでの説明を見比べると、どんなことが分かりますか。

説明を振り返り、見いだした事柄を統合的・発展的に考察する機会を設けること

計算すると同じように $3 \times$ (整数)の形に変形することができた。

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率〔中学校数学1年〕

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連				評価の観点			問題形式			高知県		目標値	
					数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	
1	1	(1)	正の数・負の数	負の数の大小関係について理解している。	○				○			○			54.1	0.1	55.0	
2		(2)	正の数・負の数	絶対値について理解している。	○				○			○			52.0	0.1	55.0	
3	2		正の数・負の数	基準をもとに、正負の数を使って点数の差を求めることができる。	○					○	○		○		74.0	1.6	70.0	
4	3		正の数・負の数	素因数分解ができる。	○				○				○		63.2	1.0	60.0	
5	4	(1)	正の数・負の数	正負の数の減法ができる。	○				○				○		68.2	1.7	70.0	
6		(2)	正の数・負の数	正負の数の除法ができる。	○				○				○		74.9	5.3	70.0	
7		(3)	正の数・負の数	累乗を含む正負の数の乗法ができる。	○				○				○		77.5	2.1	70.0	
8		(4)	文字式	1次式の減法ができる。	○				○				○		55.5	4.6	45.0	
9	5	(1)	文字式	文字式の表し方を理解している。	○				○				○		58.6	0.3	50.0	
10		(2)	文字式	数量の関係を不等式で表すことができる。	○				○		○			○	27.6	8.4	30.0	
11	6		1次方程式	1次方程式の等式の性質について理解している。	○				○				○		82.7	0.4	85.0	
12	7	(1)	1次方程式	簡単な1次方程式を解くことができる。	○				○				○		57.7	5.8	55.0	
13		(2)	1次方程式	分数を含む1次方程式を解くことができる。	○				○				○		44.9	14.5	40.0	
14	8		1次方程式	比例式を解くことができる。	○				○				○		68.1	0.7	65.0	
15	9	(1)	1次方程式	具体的な事象における数量の関係をとらえ、その関係を比例式で表すことができる。	○					○	○	○			37.4	0.8	40.0	
16		(2)	1次方程式	文章問題を解くための方程式を立式することができる。	○					○	○				8.4	22.1	30.0	
17	10	(1)	比例・反比例	座標平面上の点の座標について理解している。					○					○		90.6	0.3	90.0
18		(2)	比例・反比例	比例の関係について理解している。					○						○		42.7	0.5
19	11	(1)	比例・反比例	比例の表から、xとyの関係を表した式を選ぶことができる。					○					○		79.4	0.6	75.0
20		(2)	比例・反比例	反比例の関係にある1組のxとyの値から、yをxの式で表すことができる。					○					○		65.2	0.8	55.0
21		(3)	比例・反比例	比例の関係を式に表し、xの値に対応したyの値を求めることができる。					○					○		41.0	3.1	50.0
22		(4)	比例・反比例	反比例の式から、そのグラフをかくことができる。					○					○		46.6	11.3	50.0
23	12		比例・反比例	具体的な事象について、yがxに比例していることをもとに、その式を立式することができる。					○		○			○		52.4	8.7	45.0
24	13		比例・反比例	具体的な事象について、yがxに反比例であることをもとに、その式を立式することができる。					○		○			○		15.9	16.4	30.0
25	14	(1)	平面図形	垂直な2直線の関係を表す記号について理解している。		○			○					○		74.4	1.2	75.0
26		(2)	平面図形	平行移動をした三角形について、対応する点の位置を選ぶことができる。		○			○					○		74.9	1.1	75.0
27		(3)	平面図形	対称移動して重ね合わせることができる三角形について、正しいものを選ぶことができる。		○			○					○		58.3	1.6	60.0
28	15		平面図形	三角形を回転移動させたときの図形を作図することができる。		○			○				○		42.9	5.3	40.0	
29	16	(1)	文字式	正三角形の個数とコインの個数の関係を文字を使って表すことができる。	○				○		○			○		28.0	11.9	30.0
30		(2)	文字式	正三角形の個数からコインの個数を求める式について説明することができる。	○					○	○			○		9.0	22.2	30.0
31	17	(1)	比例・反比例	与えられた情報から正しい塩の量を求めることができる。					○		○			○		46.5	14.3	50.0
32		(2)	比例・反比例	海水の量ととり出せる塩の量の関係を式で表し、式から必要な海水の量を求める方法を説明することができる。					○		○			○		9.6	24.5	30.0

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率〔中学校数学2年〕

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連				評価の観点			問題形式			高知県		目標値	
					数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	
1	1	(1)	式の計算	2つの文字を含む式について、数を代入して式の値を求めることができる。	○				○				○			34.2	15.1	40.0
2		(2)	式の計算	等式を変形して、式をある文字について解くことができる。	○				○				○			40.7	13.5	45.0
3	2	(1)	式の計算	多項式の同類項をまとめる計算ができる。	○				○				○			74.7	3.8	75.0
4		(2)	式の計算	単項式の乗法と除法ができる。	○				○				○			60.1	7.0	65.0
5		(3)	式の計算	分数を含む多項式の計算ができる。	○				○				○			37.7	8.8	40.0
6	3	(1)	連立方程式	加減法を理解し、それを使って連立方程式を解くことができる。	○				○				○			71.3	5.1	75.0
7		(2)	連立方程式	代入法を理解し、それを使って連立方程式を解くことができる。	○				○				○			51.7	12.1	60.0
8		(3)	連立方程式	$A=B=C$ の形の方程式を解くことができる。	○				○				○			57.9	12.6	60.0
9	4		連立方程式	与えられた文章問題に対して、適切な連立方程式を立式することができる。	○					○	○		○			11.1	21.6	30.0
10	5		連立方程式	連立方程式を利用して、文章問題を解くことができる。	○					○	○		○			54.7	16.5	55.0
11	6	(1)	1次関数	1次関数の関係を表す表から、1次関数の変化の割合を求めることができる。			○		○				○			65.0	0.6	60.0
12		(2)	1次関数	1次関数の式から、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができる。			○		○				○			59.4	0.6	65.0
13	7	(1)	1次関数	1次関数の関係を表す表から、傾きや切片の値の正負を判断し、正しいグラフを選ぶことができる。			○		○				○			63.7	0.7	60.0
14		(2)	1次関数	1次関数の式から、グラフをかくことができる。			○		○				○			60.4	4.4	65.0
15	8	(1)	1次関数	2点の座標から、1次関数の式を求めることができる。			○		○				○			60.2	1.5	60.0
16		(2)	1次関数	グラフがある直線に平行であること、1点の座標から1次関数の式を求めることができる。			○		○				○			44.8	1.5	50.0
17		(3)	1次関数	2元1次方程式の解を座標とする点の全体を表したグラフを選ぶことができる。			○		○				○			46.9	1.2	45.0
18	9	(1)	1次関数	グラフが x 軸に平行な方程式を選ぶことができる。			○		○				○			42.8	1.2	50.0
19		(2)	1次関数	2つの1次関数のグラフの交点の座標を求めることができる。			○		○				○			45.3	2.7	45.0
20	10		1次関数	水そうに入れる水の深さ(高さ)と時間との関係を式で表すことができる。			○		○		○		○			25.9	13.7	35.0
21	11		1次関数	原点とある1次関数の x 軸、 y 軸との交点からできる三角形について、面積を求めることができる。			○		○				○			31.7	20.1	40.0
22	12		図形の性質	図から平行な2直線の角(同位角や錯角)の大きさについて必ずいえるものを選ぶことができる。		○			○				○			58.2	1.5	65.0
23	13	(1)	図形の性質	平行線と同位角、錯角の関係について理解し、角の大きさを求めることができる。		○			○				○			62.0	4.5	75.0
24		(2)	図形の性質	対頂角や三角形の内角の和について理解し、角の大きさを求めることができる。		○			○				○			82.5	4.2	85.0
25	14		図形の性質	正多角形の角の性質や、多角形の内角や外角の性質について理解し、角の大きさを求めることができる。		○			○			○			43.6	3.2	50.0	
26	15	(1)	証明	命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の結論を読み取ることができる。		○			○				○			70.5	13.8	65.0
27		(2) I	証明	与えられた事柄から、正しい三角形の合同条件を判断し、証明を完成させることができる。		○			○				○			72.5	2.1	75.0
28		(2) II	証明	与えられた事柄から、合同な図形の性質と平行線になるための条件を判断し、証明を完成させることができる。		○			○				○			31.9	2.6	40.0
29	16	(1)	式の計算	説明を読み、示された式の意味を示すことができる。	○				○	○			○			30.4	18.3	40.0
30		(2)	式の計算	各位の数の和が3である3けたの自然数は、3の倍数であることの説明を完成させることができる。	○				○	○			○			13.2	47.4	30.0
31		(3)	式の計算	各位の数の和が9である3けたの自然数について成り立つ事柄を表現することができる。	○				○	○			○			35.1	42.1	30.0
32	17	(1)	1次関数	B社において、14冊読んだときの利用料金を求めることができる。			○		○	○			○			59.4	20.8	60.0
33		(2)	1次関数	特定の冊数を越えた場合、A社が最も得であることを、グラフを用いて求める方法について、説明することができる。			○		○	○			○			4.9	42.2	25.0

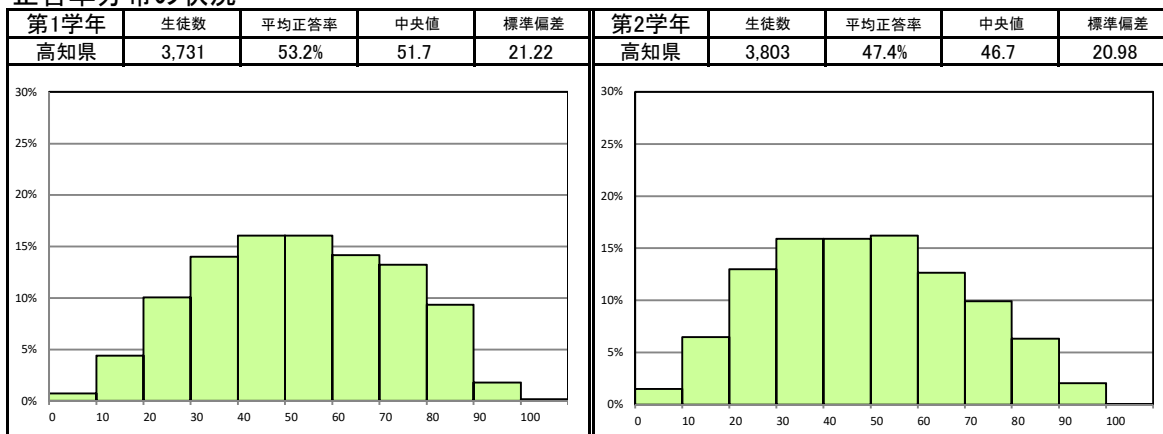
(7) 中学校理科

【分類・区別の状況】

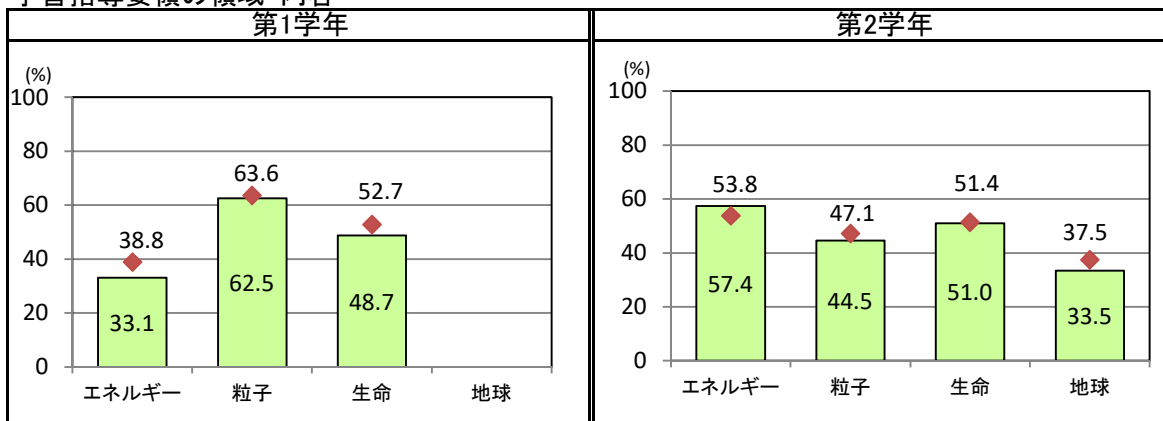
■高知県正答率

◆目標値

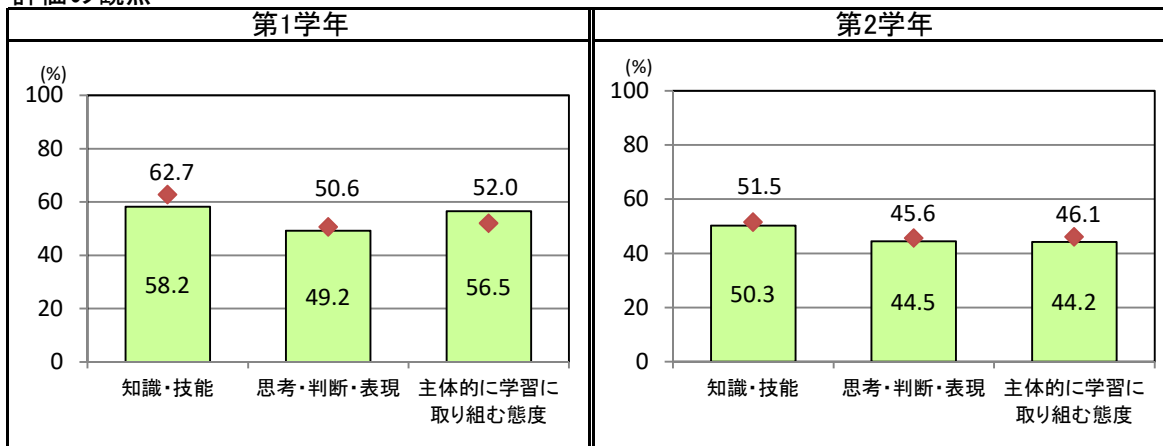
正答率分布の状況



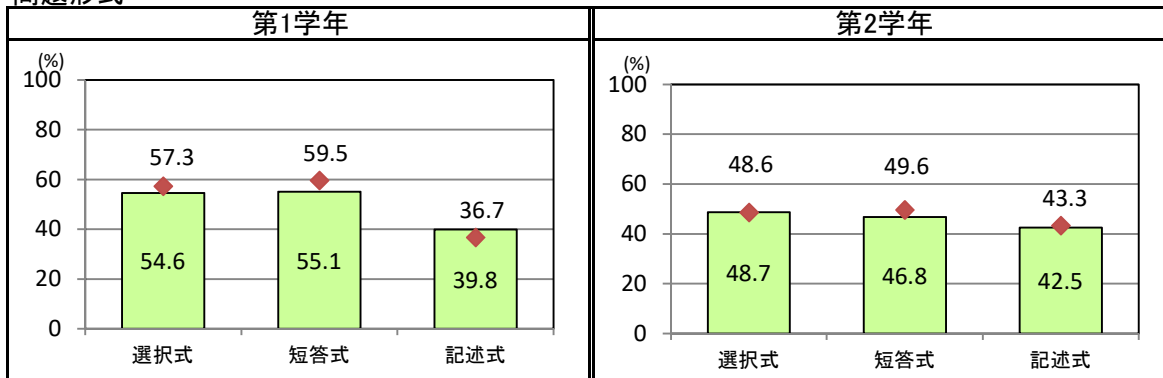
学習指導要領の領域・内容



評価の観点



問題形式



これまでの授業改善からみられる成果

気体や水溶液の性質の学習において、気体を捕集したり水溶液から物質を取り出したりする方法を理解することができている。このことから、目的に応じて、実験に必要な器具などを生徒が考えて準備しながら、実験を行っていることなどがうかがえる。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
短答 (作図)	7(2)④	第1分野(1)(7) 光と音	キンギョから出た光が目が届くまでの道筋を表すことができる。	16.3	-13.7

物体から観察者に向けて、光の道筋を作図することができおらず、光がどのように進むのかを理解できていない、または適切に表現することができないと考えられる。本設問以外にも、反射や屈折により、物体がどのように見えるかどうかを問う設問にも弱さが見られる。このことから、光の性質について科学的に探究する学習活動の中で、光の道筋の作図を用いて考察するような場面が十分設定されていないことがうかがえる。

授業改善のポイント

単元を通して解決する課題を設定し、活用できる知識及び技能を習得できるようにする。

知識及び技能を活用できるようにするためには、自然の事物・現象から問題を見出して課題を設定し、科学的に探究する学習活動の充実が大切である。例えば、単元のはじめに、ものづくりとそれを使った観察から問題を見出して単元を通して解決する課題を設定する。その課題を科学的に探究することで解決し、知識及び技能を習得するという単元の構成が考えられる。

「平成30年度全国学力・学習状況調査の調査結果を踏まえた理科の学習指導の改善・充実に関する指導事例集」事例Bを加工して作成



付たい力 見いだした問題を基に、解決可能な課題を設定することができる。

1 自然の事物・現象に対する気づき (発見) → 課題の設定

2 仮説の設定 → 検証計画の立案 → 観察・実験の実施 → 結果の処理

3 考察・推論 → 表現 → 次の探究の過程

1 テレプロンプターのモデルを作成し、気付いたことを挙げてみましょう。
問題を見いだすことができるような自然の事物・現象を提示する。

話す側からは原稿が見えるのに、聞く側からは見えないう!!なぜだろう?
透明板の角度を変えると、聞く側からも見えるようになるよ。

【見いだした問題】
聞く側に原稿が見えたり見えなかったりするの、反射の仕方が関係しているのか。
「なぜ〜か」という事象そのものへの疑問から、事象とその原因として考えられる要因との関係を捉えさせる。

【課題】
光が反射するときの道筋はどのようなになるか。
解決可能な課題を設定。一仮説や実験計画が立てられるかどうか。

2 課題に対する仮説・予想を考える場を設定する。

3 仮説・予想を検証するための実験を計画する場を設定する。

【立案】 上下と左右の2方向から光を差し込み、差し込んだ光と跳ね返った光の角度を測る。
検証計画を立案したら、結果を見通す。

差し込んだ光と同じ角度で跳ね返る。
左右方向でも、上下方向でも、反射は起こる。

実験を行うと、差し込む光と跳ね返る光の間(c)が90°という結果になると思う。

実験や結果の記録の場面では、結果の見通しをイメージしながら行う。

これまでの授業改善からみられる成果

同一集団の昨年度の結果と比べると、密閉された空間の中で酸化が起こったときの気体の割合や現象について説明できるなど、思考・判断・表現の設問において改善が見られる。このことより、日頃の授業でも考えさせ、表現させる場面を意図的に組み込んでいることが考えられる。



課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
記述	3(2)	第1分野(4)(イ) 化学変化	予想を確かめるための測定値の取り方を構想し、説明できる。	35.8	+0.8

本設問では「測定値をどのように増やせばよいか」と問われているが、測定値に触れていなかったり、何を増やすかの説明が不足していたりする記述が見られたことにより、得られた結果では考察することができない場合に、何を改善すればよいかを構想する力が付いていないと考えられる。このことにより、実験結果の処理について振り返り、実験の計画を検討して改善する力を育成する指導が十分でないことがうかがえる。

授業改善のポイント

考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善する学習活動を設定する。

科学的に探究する上で、考察の妥当性を高めるために、実験結果の処理について振り返り、実験の計画を検討して改善することは大切である。そのためには、実験を行う前に「結果の見通し」をもち、見通しどおりであったかを考察のときに振り返るようにする。測定値の不足から妥当性の高い考察を行えない場合、測定する間隔や範囲などの改善点を明確にし、それらを基に実験の計画を検討して改善することが重要となる。

令和4年度全国学力・学習状況調査の 報告書(中学校理科)p.57~61を加工して作成

付けたい力

実験の計画を構想し、検討して改善することができる。

学習指導要領(3) 電流とその利用 (7) 電流 ① 電流・電圧と抵抗

課題の把握(発見)

課題の設定

仮説の設定

検証計画の立案

観察・実験の実施

結果の処理

考察・推論

振り返り

表現

課題の解決

次の探究の過程

【課題】

抵抗器のある回路を流れる電流は、加えた電圧とどのような関係にあるのだろうか。

【仮説】

電圧を大きくすると、電流も大きくなる。その関係は、比例の関係にあるのではないかな。

【実験】

抵抗器のある回路を作成。抵抗器に加わる電圧と、抵抗器を流れる電流をはかる。

【結果】

Aさん: あれ、この結果だと、グラフは直線にはならないよ。比例ではないのかな。

Bさん: 僕は仮説どおり、グラフは直線になって、電流は電圧に比例すると言えると思うよ。誤差の範囲かな。もっと測定値を増やしてみたらどうだろう。

どちらの考えが妥当かを判断するために、測定値を増やすという提案がありました。では、どのように増やしたらよいか考えましょう。

測定値を2倍にしたらいい。

細かく刻んだらいいと思う。

何を、どれだけ? 数値を使って、具体的に測定する間隔や範囲に着目して考えてみましょう。

改善

1回目、加えた電圧は4Vまでだったから、それを5V、6V、7V、8Vも測定するようにするとよい。加えた電圧を1V間隔より細かく、0.5V刻みにするとよい。

結果を基に、仮説に照らし合わせながら考察し、妥当性が低いと判断した場合、改善点を考える場を設定する。

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率 [中学校理科1年]

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連				評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1		(1)	植物の分類	アブラナの花のつくりを理解している。			○		○			○			60.0	0.0	65.0
2	1	(2)	植物の分類	マツとアブラナの胚珠について理解している。			○		○			○			30.6	1.8	35.0
3		(3)	植物の分類	マツに果実ができない理由を説明できる。			○		○	○			○		32.1	14.4	35.0
4		(1)	植物の分類	ワラビの食べる部分が何かを指摘できる。			○		○			○			22.5	0.1	35.0
5		(2)	植物の分類	シダ植物やコケ植物を理解している。			○		○				○		55.1	10.7	60.0
6	2	(3)①	植物の分類	タマネギが単子葉類であることを推測できる。			○		○			○			47.8	13.7	55.0
7		(3)②	植物の分類	ニンジン食べる部分を指摘できる。			○		○			○			57.5	0.3	60.0
8		(1)	動物の分類	哺乳類は胎生であることを理解している。			○		○				○		58.6	7.7	65.0
9		(2)	動物の分類	特徴から、アンフューマを分類できる。			○			○	○				83.6	0.2	75.0
10	3	(3)①	動物の分類	節足動物のからだにあしには、節があることを理解している。			○		○				○		50.0	5.4	50.0
11		(3)②	動物の分類	軟体動物に分類される動物を指摘できる。			○		○			○			38.2	0.2	45.0
12		(1)	身のまわりの物質とその性質	有機物について理解している。		○			○				○		54.5	15.0	65.0
13	4	(2)	身のまわりの物質とその性質	粉末にだけ残りができた結果を検討し、改善する方法を指摘できる。		○				○					69.3	0.6	65.0
14		(3)	身のまわりの物質とその性質	実験の結果から、物質を特定することができる。		○				○					46.4	1.0	50.0
15		(1)	水溶液の性質	物質をとけるだけとかした水溶液を、「飽和水溶液」ということを理解している。		○			○				○		63.8	12.8	65.0
16	5	(2)	水溶液の性質	溶解度の表から、出てくる結晶の質量を求めることができる。		○				○					46.6	0.7	50.0
17		(3)	水溶液の性質	ろ過の正しい操作方を身に付けている。		○			○						86.9	1.2	90.0
18		(4)	水溶液の性質	水溶液から、より多くのミョウバンの結晶を得る方法を説明できる。		○				○	○			○	44.7	14.5	35.0
19		(1)	物質の状態変化	袋の中のエタノールのような粒子のモデルで表すことができる。		○			○				○		89.1	2.9	90.0
20	6	(2)①	物質の状態変化	ガスバーナーの炎の調整の仕方を身に付けている。		○			○				○		48.0	0.5	55.0
21		(2)②	物質の状態変化	エタノールの沸点を指摘できる。		○			○				○		77.6	2.4	80.0
22		(2)③	物質の状態変化	水とエタノールの混合物を加熱したときの変化を理解している。		○			○				○		63.8	0.8	70.0
23		(1)	光の性質	水面にうつったキンギョの像のようすを指摘できる。	○					○					31.5	1.0	35.0
24	7	(2)①	光の性質	キンギョから出た光が目届くまでの道筋を表すことができる。	○				○					○	16.3	9.0	30.0
25		(2)②	光の性質	全反射を主に利用しているものを指摘できる。	○					○					50.2	0.9	55.0
26		(3)	光の性質	キンギョが実際にいた位置を指摘できる。	○					○					34.5	1.0	35.0
27		(1)	気体の性質	水にとけにくい性質をもつ気体の集め方を理解している。		○			○	○					79.3	1.2	75.0
28	8	(2)①	気体の性質	発生した気体が二酸化炭素であることを推測できる。		○				○				○	62.2	10.6	60.0
29		(2)②	気体の性質	酸素が水素を調べるための実験を構想し、説明できる。		○				○	○			○	42.7	18.3	40.0

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率〔中学校理科2年〕

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連				評価の観点			問題形式			高知県		目標値	
					エネルギー	粒子	生命	地球	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)	
1		(1)	物質の成り立ち	炭酸水素ナトリウムを加熱すると二酸化炭素が発生することを指摘できる。		○				○			○			77.0	2.6	80.0
2		(2)	物質の成り立ち	水によって塩化コバルト紙の色が赤色(桃色)に変化することを理解している。		○				○			○			51.2	9.0	55.0
3		(2)	物質の成り立ち	炭酸水素ナトリウムと、炭酸水素ナトリウムを加熱してできた物質の性質を理解している。		○				○			○			32.7	0.3	40.0
4		(3)	物質の成り立ち	物質が分解する化学変化によって起こる現象を指摘できる。		○				○	○		○			56.8	0.6	55.0
5		(1)	化学変化	発熱反応について理解している。		○				○			○			20.1	10.5	30.0
6		(2)	化学変化	硫黄と鉄の混合物を加熱する実験の際に注意することを理解している。		○				○			○			78.7	0.3	75.0
7		(3)	化学変化	集気びんの中の酸素と鉄が結びつくことで、集気びんの中の気体の体積が減少したことを指摘できる。		○				○			○			45.6	0.4	40.0
8		(3)	化学変化	酸化鉄と鉄を、うすい塩酸と反応させたときのように理解している。		○				○			○			26.0	0.7	30.0
9		(1)	化学変化と物質の質量	銅と酸素の化学変化を表す化学反応式を修正できる。		○				○			○			22.6	8.4	30.0
10		(2)	化学変化と物質の質量	予想を確かめるための測定値の取り方を構想し、説明できる。		○				○	○			○		35.8	25.7	35.0
11		(3)	化学変化と物質の質量	実験で還元された物質を指摘できる。		○				○			○			45.3	0.4	50.0
12		(4)	化学変化と物質の質量	還元によって起こる現象を理解している。		○				○	○		○			42.5	0.6	45.0
13		(1)	生物と細胞	細胞壁のはたらきについて理解している。			○			○			○			51.3	0.4	50.0
14		(2)	生物と細胞	同じはたらきをする細胞が集まったものを、「組織」ということを理解している。			○			○			○			41.1	11.4	45.0
15		(1)	植物のからだのつくりとはたらき	葉の表皮に見られるすき間を、「気孔」ということを理解している。			○			○			○			71.5	9.4	70.0
16		(2)	植物のからだのつくりとはたらき	植物のからだの中の水は、道管を通ることを理解している。			○			○			○			49.3	13.2	50.0
17		(3)	植物のからだのつくりとはたらき	根毛が効率よく水や養分を吸収できる理由を説明できる。			○			○	○		○			49.1	14.5	55.0
18		(1)	植物のからだのつくりとはたらき	対照実験で調べる条件を指摘できる。			○			○			○			62.7	6.6	60.0
19		(1)	植物のからだのつくりとはたらき	実験の結果で石灰水が変化しなかった理由を指摘できる。			○			○			○			64.5	0.5	65.0
20		(2)	植物のからだのつくりとはたらき	植物の葉が呼吸を行ったかどうかを調べるための実験を構想できる。			○			○			○			32.0	1.0	35.0
21		(1)	動物のからだのつくりとはたらき	動脈血と静脈血について理解している。			○			○			○			51.7	0.6	50.0
22		(2)	動物のからだのつくりとはたらき	血液の成分とそのはたらきについて理解している。			○			○			○			61.2	0.6	60.0
23		(3)	動物のからだのつくりとはたらき	腎臓のはたらきについて理解している。			○			○			○			69.4	0.8	70.0
24		(1)	動物のからだのつくりとはたらき	実験の結果から、デンプンがふくまれていなかったといえる理由を説明できる。			○			○	○		○			42.6	19.5	40.0
25		(2)	動物のからだのつくりとはたらき	実験の結果から、ブドウ糖のみセロハンの穴を通過したことを推測できる。			○			○			○			40.5	1.2	40.0
26		(2)	動物のからだのつくりとはたらき	実験の結果や調べたことから、デキストリンの分子を分子のモデルを用いて表すことができる。			○			○	○		○			26.7	17.7	30.0
27		(1)	気象の観測	気象観測の結果を、天気図の記号を用いて表すことができる。			○	○		○			○			46.3	4.8	50.0
28		(2)	気象の観測	高気圧の中心部の地表付近の風の吹き方と、天気について理解している。			○	○		○			○			42.1	2.6	40.0
29		(1)	気象の観測	床に加える圧力が最も大きくなるような直方体の物体の置き方がわかり、その圧力を求めることができる。			○	○		○			○			17.6	9.2	30.0
30		(2)	気象の観測	直方体の物体を半分に切ったときの床に加わる圧力について指摘できる。			○			○			○			28.1	2.7	30.0
31		(1)	電流の性質	電流計の読み方を身に付けている。	○					○			○			78.7	5.2	65.0
32		(2)	電流の性質	電気用図記号を用いて回路を表すことができる。	○					○			○			56.0	8.5	50.0
33		(3)	電流の性質	抵抗器に加わる電圧の大きさと流れる電流の大きさの関係を指摘できる。	○					○			○			74.9	1.2	70.0
34		(4)	電流の性質	最も大きい電流が流れる回路と最も小さい電流が流れる回路を指摘できる。	○					○			○			20.1	1.2	30.0

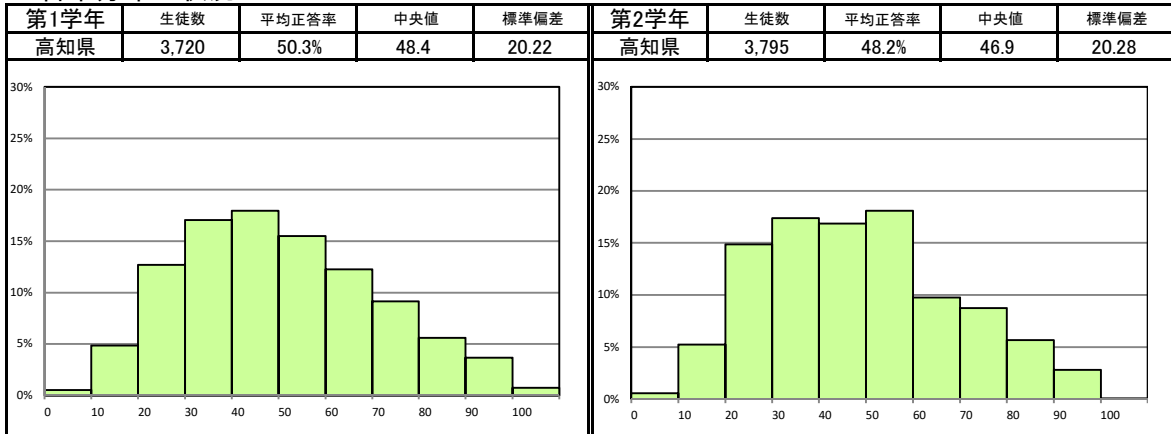
(8) 中学校外国語（英語）

【分類・区別の状況】

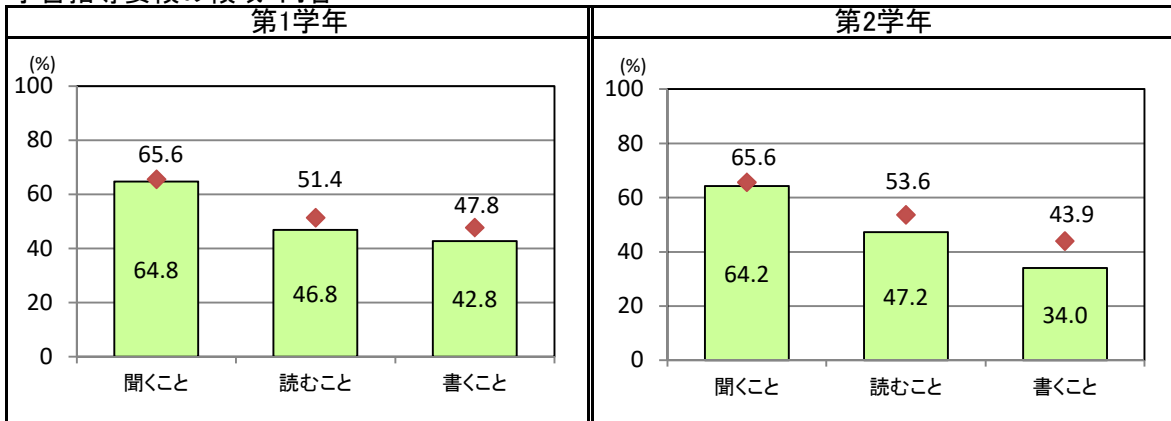
■高知県正答率

◆目標値

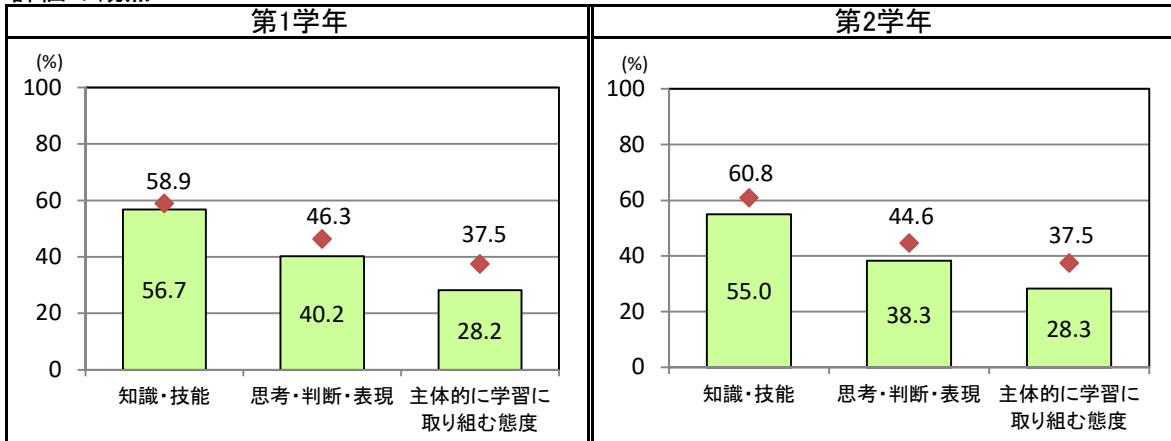
正答率分布の状況



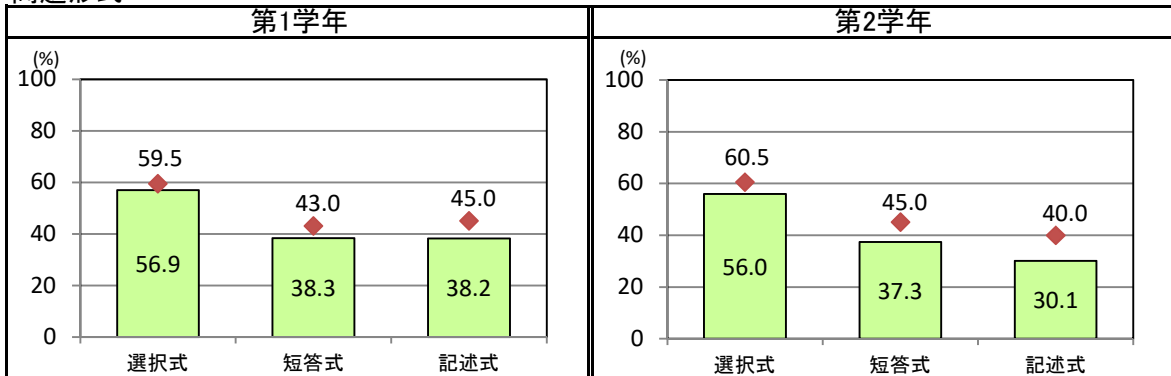
学習指導要領の領域・内容



評価の観点



問題形式



これまでの授業改善からみられる成果

日常的で簡単な事柄について必要な情報を聞き取る力に改善が見られる。さらに指導を充実させるためには、小学校から慣れ親しんできた表現を引き続き使用するとともに、中学校段階にふさわしい発話の速度や指示の出し方（不必要に何度も繰り返さない）などの工夫をし、より自然な口調で話される英語での聞き取りに近づけていくことが大切である。

課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
記述	9 (1)	思判表 (2) ウ	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(whatを使って行動をたずねる)	8.4	-16.6

Kaoruの発話内容を踏まえて、それに関連した質問をして、会話を継続させていくことに課題が見られた。解答類型を見ると、正答以外の解答や無解答が多かった。このことから、Kaoruの発話内容に関わる質問をすることができているものの、コミュニケーションに支障をきたすような文構造の誤りがある、もしくは、文脈が読み取れず何を質問してよいか分からないため、自分の考えを伝えることができていないと考えられる。

授業改善のポイント

即興で意見や感情等を伝え合いながら、会話を継続・発展させる活動を仕組む。

日頃の授業で継続的にやり取りをする機会を増やして、会話を継続させる力を育てることが大切である。教師自身が生徒と、継続・発展させる方法（ストラテジー）を駆使してやり取りすることで、ストラテジーのモデルを示すことができる。さらには、教科書を活用して、本文中の会話にどのようなストラテジーが使われているかを生徒に気付かせることを通して、生徒が自分の言いたいことを即興で表現できる範囲を徐々に拡大していくことが大切である。

付けたい力

読んで（聞いて）把握した内容について、応じたり質問したりできる。

関連質問をする力を高めるためには？

What are your hobbies?
I like to go skiing.
Oh, you like to go skiing.
次にとどのような質問をすればより多くの情報を得ることができるでしょうか？
いつスキーに行き始めたんだろう
When did you start to go skiing?
どこにスキーに行くのかな
Where do you usually go skiing?
だれと一緒に行くのかな
Do you go skiing with someone else?

Small Talkを年間を通じて帯活動に位置付けることも有効です。

表現したいことが英語で表現できない生徒がいたら・・・
①パラフレーズ・・・伝えたい内容を具体化し、分かりやすい別の言葉で言い換える。
②文構造の理解を深める・・・主語や動詞が何になるかを考えさせ、語順を意識させる。

教科書の対話文を基に「会話を継続・発展させる方法（ストラテジー）」を考えさせるには？

My Favorite Picture
Alan先生がお気に入りの写真をYuikoとKenに紹介しています。

A: Look at this picture of my family.
This is my favorite picture.
Y: Nice! Who is she?
A: Oh, she is my mother, Nancy.
And he is my brother, Tom.
He can cook very well.
Y: I see. 【 1 】
A: She is a teacher. Do you have any other questions about them?
K: 【 2 】

Look at these underlined parts. They are important in conversation. Why? Talk in pairs.
YuikoはNice!やI seeと反応しているね。
更に質問もしているから話が続けているね。

Look at Blank 1.
What is Yuiko saying?
Look at Blank 2.
What is Ken saying?
Do you have any ideas?

【1】の後ろにAlan先生が“she is a teacher.”と答えているから、職業を尋ねているのかな。
【2】はany otherとあるからほか質問は？ということかな。



これまでの授業改善からみられる成果

聞き手として必要な情報を聞き取ることに成果が見られる。さらに指導を充実させるためには、話されることの全てを詳細に聞き取ろうとするのではなく、聞きたい情報（場面はどのような場面か、どのような情報が必要な状況か）をはっきりさせて、それに関連する英語表現に注意を払って聞き取る力を身に付けさせることが大切である。



課題・今後の授業改善に向けて

問題形式	問題番号	学習指導要領	出題のねらい	高知県正答率 (%)	目標値との差
記述	8 (4)	思判表 (2) イ	メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている。	28.1	-11.9

メール文を読んで、話のあらすじを理解し、書き手の意見などを主体的に捉えることに課題が見られた。解答類型を見ると、正答以外の解答や無解答が多かった。このことから、資料の内容を読み手として主体的に考えたり、判断しながら理解したりすることができていないか、もしくは自分なりの意見が思い浮かんでも、それを英語で表現することができていないと考えられる。

授業改善のポイント

目的・場面・状況を明確にした言語活動（読むこと）を充実させる。

目的・場面・状況に応じて読み取る必要があること（必要な情報や概要、要点）を捉えさせることで、「読むこと」の言語活動になる。英文を一文ずつ解説しながら全体の理解につなげるボトムアップの読み方ではなく、文章全体を読んで、おおまかな流れを把握したり、大切な部分を捉えたりする読み方を指導することが大切である。また、読んだ内容について、自分の考えを整理して述べるために、教科書に書かれていることを理由にしながら（もしくは本文を引用しながら）考えを述べることも考えられる。

付けたい力

読むだけにとどめず、読んだ内容について、自分の考えを整理して述べるができる。

概要や要点を捉えるためには？

What is the main point of the first (second / third) paragraph? Choose the correct answer.

概要

We have many 100-yen shops (hyakkin) in our city. We can buy many kinds of things for 100 yen now. One of the biggest sellers is stationery. Many people buy kitchen items and cleaning items, too. We can also get food, toys, and even clothes.

There were some shops like hyakkin long before the first hyakkin shop opened. In the 1930s, Japan had "100-cent shops." Everything in these shops was 10 sen. They were very popular. Their number went down during World War II. In the 1960s, some supermarkets or department stores had 100-yen corners or 100-yen events. In 1985, the first hyakkin opened in Aichi. In the 1990s, a lot of hyakkin opened in Japan. Today there are about 8,000 shops.

There are shops like hyakkin in many countries. For example, in the U.S., they have one-dollar shops. I was surprised that some of these shops sell medicine. We cannot buy medicine at hyakkin in Japan. The U.K. has one-pound shops. In the U.K., DIY is popular, so there are many stores for DIY at one-pound shops. Many other countries also have shops like hyakkin.

出典：平成31年度
全国学力・学習状況調査 読むこと 大問6

- | | |
|---|---|
| ① 100-yen Shops | ② 100-yen Shops |
| (1) The number of shops.
(2) Hyakkin in the world.
(3) History. | (1) Popular items.
(2) History.
(3) Hyakkin in the world. |

Many people buy kitchen items とあるから②かなあ。次の段落はどうかな。

要点

Read the article again. What is the most important sentence in this article? What do you think? Underline one sentence.

生徒の状況により、「Important points are repeated」など、検討の手がかりを与えてもよいでしょう。

smartという言葉が繰り返されているし、thereforeと書かれているからこのあたりが一番言いたいことかな。

読んだことについて、事実や自分の考え、気持ちを伝え合うためには？

There are a lot of hungry people in the world. The World Food Programme gives food to about 90,000,000 people in 83 countries. Japan is a member of this project. However, here in Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. It means that one person wastes two rice balls every day. We waste food not only at home, but also at restaurants, convenience stores, supermarkets, schools, and some other places. That is really *mottainai!* We have to stop wasting food now. What can we do about this problem?

出典：平成31年度
全国学力・学習状況調査 読むこと 大問8

(トピックに関する) 情報
や自分の考え

理由 使いたい引用表現

In Japan, people waste more than 6,000,000t of food every year. を引用して「食べ物を買いきるのをやめたい」と言いたいな。

教科書に書かれていることを理由にしながら自分の考えを述べる（本文を引用しながら述べる）指導も考えられます。その際、上図のような思考ツール（Yチャート）に引用の領域を設けることで、教科書本文で扱われている英語表現や言語材料の形式に対する気付きが促されます。

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率 [中学校外国語(英語)1年]

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連			評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					聞くこと	読むこと	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率(%)	無解答率(%)	正答率(%)
1	1	(1)	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(ものと場所)	○			○			○			55.0	0.1	65.0
2		(2)	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(行動と対象)	○			○			○			97.9	0.0	90.0
3		(3)	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(canと行動)	○			○			○			86.5	0.1	85.0
4	2	(1)	リスニング(対話文の応答)	対話の内容を聞き、適切に応答している。(テニスを毎日するのかとたずねられて)	○			○			○			75.9	0.2	70.0
5		(2)	リスニング(対話文の応答)	対話の内容を聞き、適切に応答している。(ペットで何が欲しいかとたずねられて)	○			○			○			43.8	0.1	50.0
6		(3)	リスニング(対話文の応答)	対話の内容を聞き、適切に応答している。(デパートはどこかとたずねられて)	○			○			○			49.5	0.3	55.0
7	3		リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	日常的な話題についての英文を聞き、概要を捉えている。	○				○		○			94.0	0.1	85.0
8	4		リスニング(対話文の応答)	対話から必要な情報を聞き取り、資料をもとに英語で答えている。	○				○	○			○	15.8	25.1	25.0
9	5	(1)①	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(一般動詞の3単現の疑問文)		○		○			○			34.2	0.3	45.0
10		(1)②	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(疑問詞whose)		○		○			○			58.8	0.1	65.0
11		(1)③	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(否定の命令文)		○		○			○			49.9	0.9	60.0
12		(1)④	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(代名詞we)		○		○			○			42.0	0.3	50.0
13		(2)①	語彙の知識・理解	対話文の情報を聞き取り、その内容を理解している。		○		○			○			77.0	0.3	70.0
14	(2)②	語彙の知識・理解	英文の情報を聞き取り、その内容を理解している。		○		○			○			67.9	0.5	65.0	
15	6	(1)	さまざまな英文の読み取り	英文を読み、必要な情報を把握して適切な絵を選んでいる。		○		○			○			24.2	0.2	30.0
16		(2)	さまざまな英文の読み取り	チラシを読み、必要な情報がどの部分にあるかを把握して、適切な箇所を選んでいる。		○		○			○			57.2	0.2	65.0
17		(3)①	さまざまな英文の読み取り	対話を読み、対話の流れと表から、必要な情報を把握して適切な場所を選んでいる。		○		○			○			39.7	0.6	50.0
18		(3)②	さまざまな英文の読み取り	対話を読み、対話の流れと表から、必要な情報を把握して文脈に応じた内容を判断している。		○		○			○			38.5	0.8	35.0
19	7	(1)	長文の読み取り	スピーチを読み、その内容を理解している。		○		○			○			63.3	0.5	60.0
20		(2)	長文の読み取り	スピーチを読み、代名詞Heの内容を理解している。		○		○			○			22.9	0.6	30.0
21		(3)	長文の読み取り	スピーチを読み、その要点を捉えている。		○		○			○			60.1	1.0	65.0
22		(4)	長文の読み取り	スピーチから必要な情報を聞き取り、感想を述べている。		○		○	○		○			19.8	19.1	30.0
23	8	(1)	単語の並べかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(let'sではじまる文)			○	○			○			27.5	4.5	40.0
24		(2)	単語の並べかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(canの疑問文)			○	○			○			67.9	3.0	65.0
25		(3)	単語の並べかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(be動詞の否定文、所有代名詞)			○	○			○			29.7	4.0	40.0
26		(4)	単語の並べかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。((what+名詞)で始まる疑問文)			○	○			○			46.8	3.4	40.0
27	9	(1)	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(whatを使って行動をたずねる)			○	○	○		○			8.4	31.3	25.0
28		(2)	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(how manyを使って数をたずねる)			○	○	○		○			20.2	24.2	25.0
29	10		3文以上の英作文	自分が好きな月について、英文を正確に書いている。			○	○			○			80.0	10.1	75.0
30			3文以上の英作文	自分が好きな月について、その理由や説明する英文を相手に伝えるように書いている。			○	○	○		○			55.3	10.1	65.0
31			3文以上の英作文	自分が好きな月について、まとまった内容で紹介する英文を相手に伝えるように書いている。			○	○	○		○			49.7	10.1	55.0

令和4年度高知県学力定着状況調査 設問別正答率〔中学校外国語（英語）2年〕

通し番号	大問	小問	問題の内容	出題のねらい	学習指導要領との関連			評価の観点			問題形式			高知県		目標値
					聞くこと	読むこと	書くこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式	正答率（％）	無解答率（％）	正答率（％）
1	1	(1)	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(人の様子)	○			○			○			97.2	0.1	90.0
2		(2)	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(標識)	○			○			○			60.0	0.1	60.0
3		(3)	リスニング(内容理解)	絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している。(していることと接続詞)	○			○			○			80.6	0.1	80.0
4	2	(1)	リスニング(対話文の応答)	対話の内容を聞き、適切に応答している。(次の日曜日かどうかとたずねられて)	○			○			○			66.9	0.2	80.0
5		(2)	リスニング(対話文の応答)	対話の内容を聞き、適切に応答している。(宿題は難しいかとたずねられて)	○			○			○			68.5	0.3	75.0
6		(3)	リスニング(対話文の応答)	対話の内容を聞き、適切に応答している。(週末に何もすることがないと言われて)	○			○			○			57.3	0.3	65.0
7	3		リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	日常的な話題について聞き、要点を捉えている。	○			○			○			31.6	0.1	30.0
8	4		リスニング(さまざまな英文の聞き取り)	日常的な話題について聞き、必要な情報を把握している。	○			○			○			82.1	0.2	80.0
9	5		リスニング(対話文の応答)	英文を聞き、その要点を捉えて自分の考えを英文で答えている。	○			○	○		○			33.0	24.2	30.0
10	6	(1) ①	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(一般動詞の過去の疑問文)		○		○			○			77.3	0.2	85.0
11		(1) ②	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(There is [are] ～)		○		○			○			46.0	0.2	55.0
12		(1) ③	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(enjoy+動名詞)		○		○			○			52.2	0.5	60.0
13		(1) ④	語形・語法の知識・理解	対話文を読み、基本的な語形・語法を理解している。(mustの否定文)		○		○			○			42.6	0.4	50.0
14		(2) ①	語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。		○		○			○			54.7	0.7	60.0
15		(2) ②	語彙の知識・理解	対話文の情報を読み取り、その内容を理解している。		○		○			○			42.6	0.7	50.0
16	7	(1)	さまざまな英文の読み取り	英文を読み、概要を捉えて適切なスライドを選んでいる。		○		○			○			43.8	0.5	45.0
17		(2)	さまざまな英文の読み取り	英文を読み、必要な情報を把握して適切な部分を選んでいる。		○		○			○			27.5	0.6	35.0
18		(3) ①	さまざまな英文の読み取り	対話を読み、対話の流れと資料から必要な情報を把握して人物の適切な発言を判断している。		○		○			○			40.8	0.7	45.0
19	(3) ②	さまざまな英文の読み取り	対話を読み、対話の流れと資料から必要な情報を把握して人物の適切な発言を判断している。		○		○			○			53.4	0.9	65.0	
20	8	(1)	長文の読み取り	メールを読み、下線部thereが指す内容を理解している。		○		○			○			60.0	0.9	60.0
21		(2)	長文の読み取り	メールを読み、その内容を理解している。		○		○			○			41.9	1.8	45.0
22		(3)	長文の読み取り	メールを読み、その要点を捉えている。		○		○			○			49.3	2.2	55.0
23		(4)	長文の読み取り	メールを読み、その概要を捉えて英文を完成させている。		○		○	○		○			28.1	21.3	40.0
24	9	(1)	単語の並べかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(副詞的用法の不定詞)			○	○			○			32.5	5.5	35.0
25		(2)	単語の並べかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(how manyで始まるThere is[are] ～.の疑問文)			○	○			○			15.5	5.2	25.0
26		(3)	単語の並べかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(過去進行形の文)			○	○			○			71.3	5.0	75.0
27		(4)	単語の並べかえによる英作文	基本的な文の語順を理解し、正確に書いている。(SVOO)			○	○			○			39.1	5.4	50.0
28	10	(1)	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(How about ～ing?を使って相手に提案する)			○	○	○		○			12.4	30.3	25.0
29		(2)	場面に応じて書く英作文	対話の流れに合った英文を、相手に伝わるように書いている。(whereを使って場所をたずねる)			○	○	○		○			5.9	31.2	25.0
30	11		3文以上の英作文	自分の将来の夢について、英文を正確に書いている。			○	○			○			38.8	18.0	55.0
31			3文以上の英作文	自分の将来の夢について、その理由や説明する英文を相手に伝えるように書いている。			○	○	○		○			57.3	18.0	55.0
32			3文以上の英作文	自分の将来の夢について、まとまった内容で紹介する英文を相手に伝えるように書いている。			○	○	○		○			32.8	18.0	50.0

5 質問調査結果

質問調査結果

本調査は、児童生徒の学力調査と合わせて学習状況等を多面的・多角的に分析し、改善策を見出すことで、更なる学力向上につなげることを目的として実施しました。

ここでは、全質問の中から高知県の児童生徒の状況や課題がよく表れている項目を抜粋して掲載しています。

【児童生徒質問紙の調査項目】

自己認識に関すること	家族のささえ
	友だちのささえ
	先生のささえ
	成功体験と自信
	充実感と向上心
	感動体験
	他者からの評価
社会性に関すること	規範意識
	思いやり（人間関係構成力）
	発信力
	対話・話し合い
	社会参画
学級環境に関すること	学級の規範意識
	学級の絆
	いじめのサイン
	対人ストレス
生活・学習習慣に関すること	生活習慣
	学習習慣
	学習意欲
	ICT 機器の活用



1. 自己認識

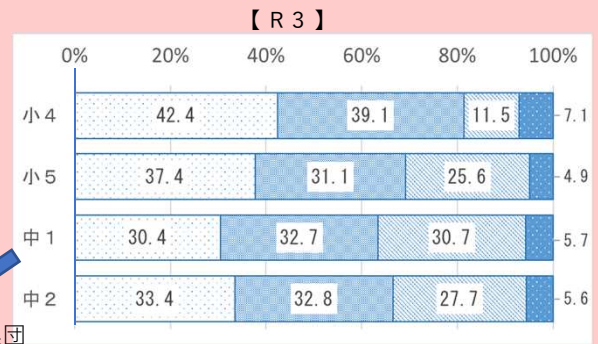
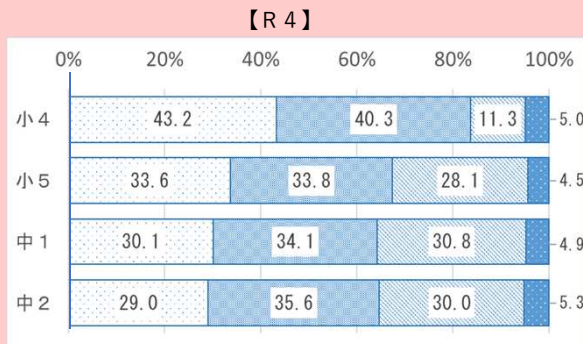
○成功体験と自信、充実感と向上心、家族や友達のささえ、進路希望や将来への意識などに関すること



小4 自分のいいところを、いくつか言えますか。
(話がすき、明るい、元気、思いやりがある、がんばっていることがある、など)

小5 自分には、いいところがあると思いますか。
中1・2 (思いやり、明るさ、まとめる力、ひょうきんさ、責任感、努力、など)

(小4) 言える 一つは言える 思いつかない 言えない
(小5 中1・2) ある 自分なりにあると思う 分からない 一つもない

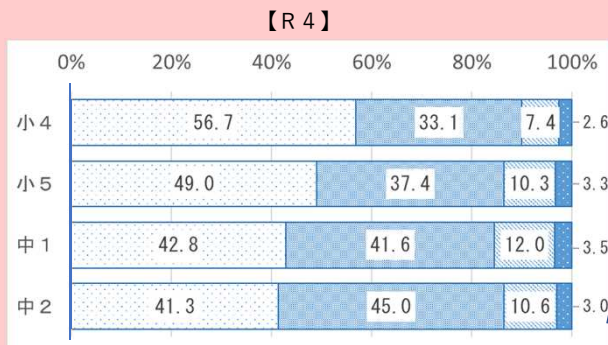


同一集団

小4 先生からほめられて、うれしかったことがありますか。

小5 自分なりにがんばったことを、先生が認めてくれて、うれしかったことがありますか。
中1・2

とてもうれしかったことがある 少しうれしかったことがある ほとんどない 一度もない

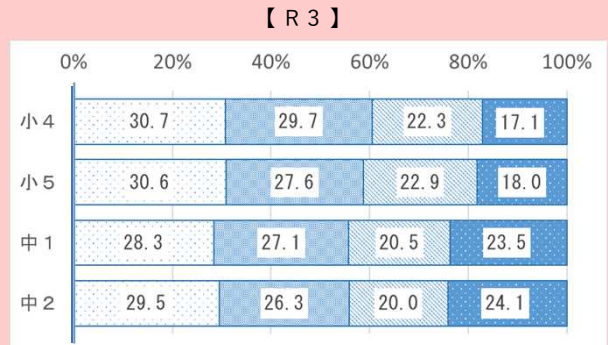
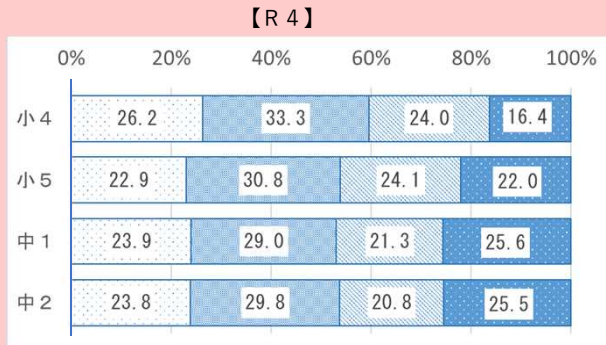


同一集団

- 【結果】
- ・「自分のいいところを言える」「自分にはいいところがある」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて減少している。
 - ・「先生からほめられてうれしかった経験」「先生が認めてくれてうれしかった経験」を問う項目では、肯定的回答をした児童生徒の割合は、令和3年度より増加している。
 - ・両項目とも、中学2年生は、同一集団で見ると、肯定的回答をした生徒の割合が昨年度から増加している。

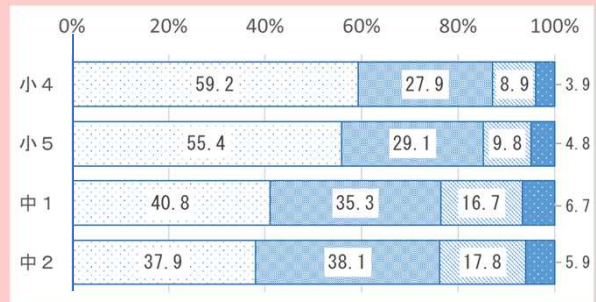
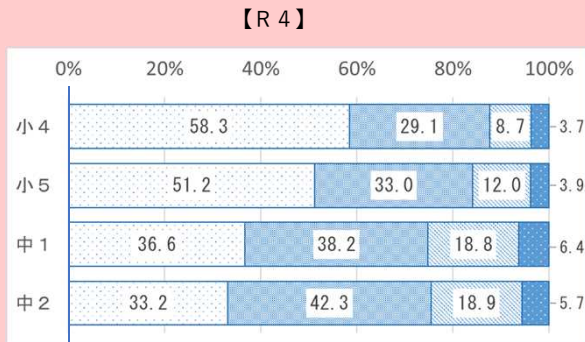
小4 つらいことや、こまったことを、学校の先生に相談できますか。
 小5 本当につらいことがあったとき、それを学校の先生に相談できますか。
 中1・2

相談できる たぶん相談できる 相談できないかもしれない 相談できない学校の先生には相談しない



小4 しょうらい、あんな人になりたい、こんなことがしたいという、ゆめやもくひょうがありますか。
 小5 将来、あんな人になりたい、こんなことがしたい、こんな仕事につきたいという、夢や目標がありますか。
 中1・2

はっきりした目標がある いちおうある 思いつかない まったくない



【結果】 ・「（先生に）相談できる」「（将来）はっきりした目標がある」と回答をした児童生徒の割合は、令和3年度より減少している。また、同一集団でみても減少している。



- ・教員からの評価によりうれしかった経験をした児童生徒の割合は、令和3年度と比較すると増加傾向にあり、教員による励ましや評価の場が増えたことがうかがえる。しかし、児童生徒自ら教員に対して働きかける場面は減少しており、教員の児童生徒への支援について工夫が必要であると考えられる。
- ・「先生からほめられてうれしかった経験」と「自分のいいところの有無」を問う項目の関係は、同一集団で見ると、中学2年生の結果にあるように、教員からの評価と自己肯定感が同じ増加傾向にあり、生徒は教員からほめられると自分のいいところ・長所を自覚するようになり、いいところをさらに伸ばそうと努力すると教員にほめられるといった相乗効果のような関係があると考えられる。
- ・コロナ禍においても、各校が工夫を凝らし、可能な範囲で学校行事や体験活動等を実施してきたが、長引く制限のある生活や近年の世界情勢の影響による生活の変化に対する不安により、将来への希望がもちにくいのではないかと考えられる。



2. 生活・学習習慣

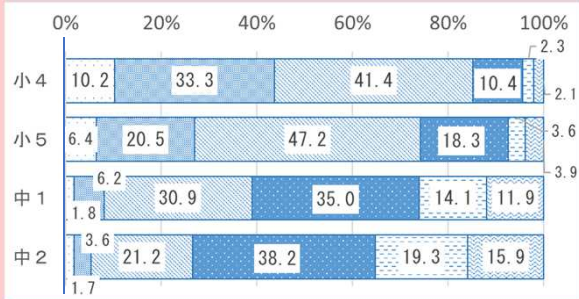
○基本的な生活習慣、学習習慣、積極的に学ぼうとする姿勢などに関すること



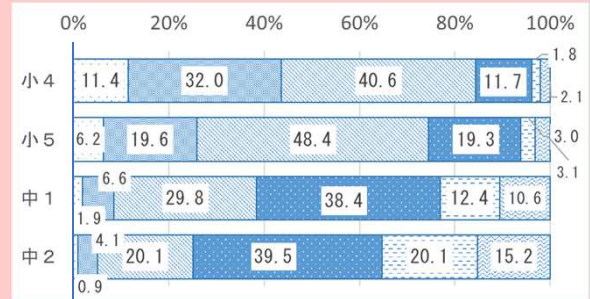
小4・5 平日（月～金）は、何時ごろねますか。
中1・2

9時前 9時ごろ 10時ごろ 11時ごろ 12時ごろ 12時過ぎ

【R4】



【R3】



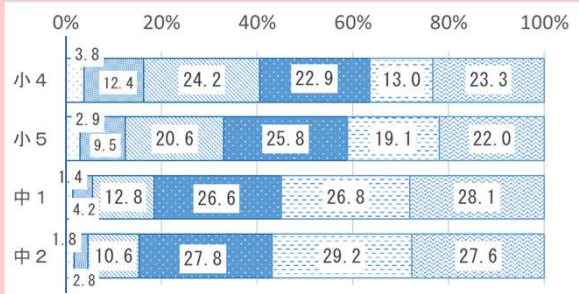
小4 平日（月～金）は、1日にどれくらいテレビや動画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか。

小5 平日（月～金）、1日にどれくらいの時間、テレビや動画を見たり、インターネットを使ったり、ゲームをしたりしますか。
中1・2

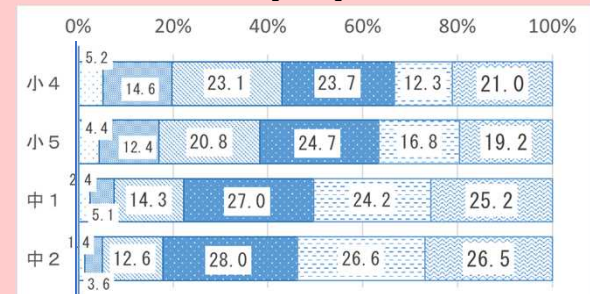
(小4) まったくしない 30分くらい 1時間くらい 2時間くらい 3時間くらい 3時間より多い

(小5 中1・2) まったくしない 30分くらい 1時間くらい 2時間くらい 3時間くらい 4時間以上

【R4】



【R3】



【結果】 「平日（月～金）の寝る時間」を問う項目で、「11時ごろ」より遅くと回答した児童生徒の割合は、令和3年度より減少傾向にあるが、同一集団で見ると増加している。

「平日（月～金）のテレビや動画の視聴時間、インターネットやゲームの使用時間」を問う項目で、「2時間くらい」より多いと回答した児童生徒の割合は、令和3年度より増加している。同一集団で見ても、増加している。



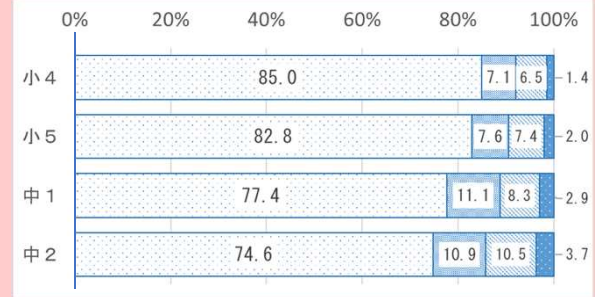
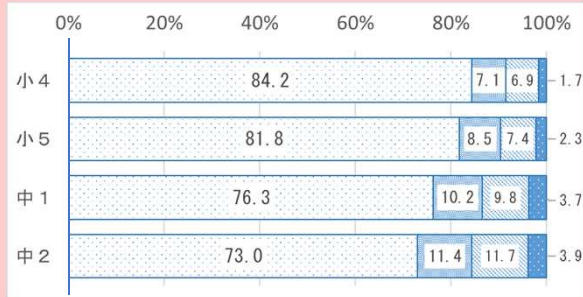
小4 朝ごはんを、毎日食べていますか。

小5
中1・2 朝食は毎日食べていますか。

毎日しっかり食べている 毎日何か口に入れる程度 食べたり食べなかったり ほとんど食べない

【R4】

【R3】



小4 学校のじゅぎょういがい、平日（月～金）は、1日にどれくらい勉強をしますか。

（じゅくなどでの勉強時間もふくみます）

小5
中1・2 学校の授業以外に、平日（月～金）、1日にどれくらいの時間、勉強をしますか。

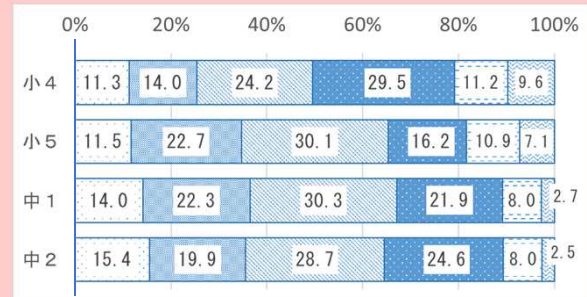
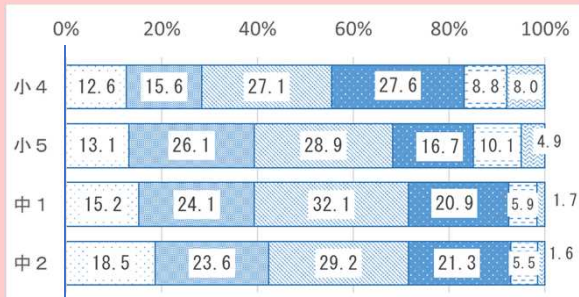
（じゅくなどでの勉強時間もふくみます）

(小4) まったくしない 15分くらい 30分くらい 1時間くらい 2時間くらい 2時間より多い

(小5 中1・2) まったくしない 30分くらい 1時間くらい 2時間くらい 3時間くらい 4時間以上

【R4】

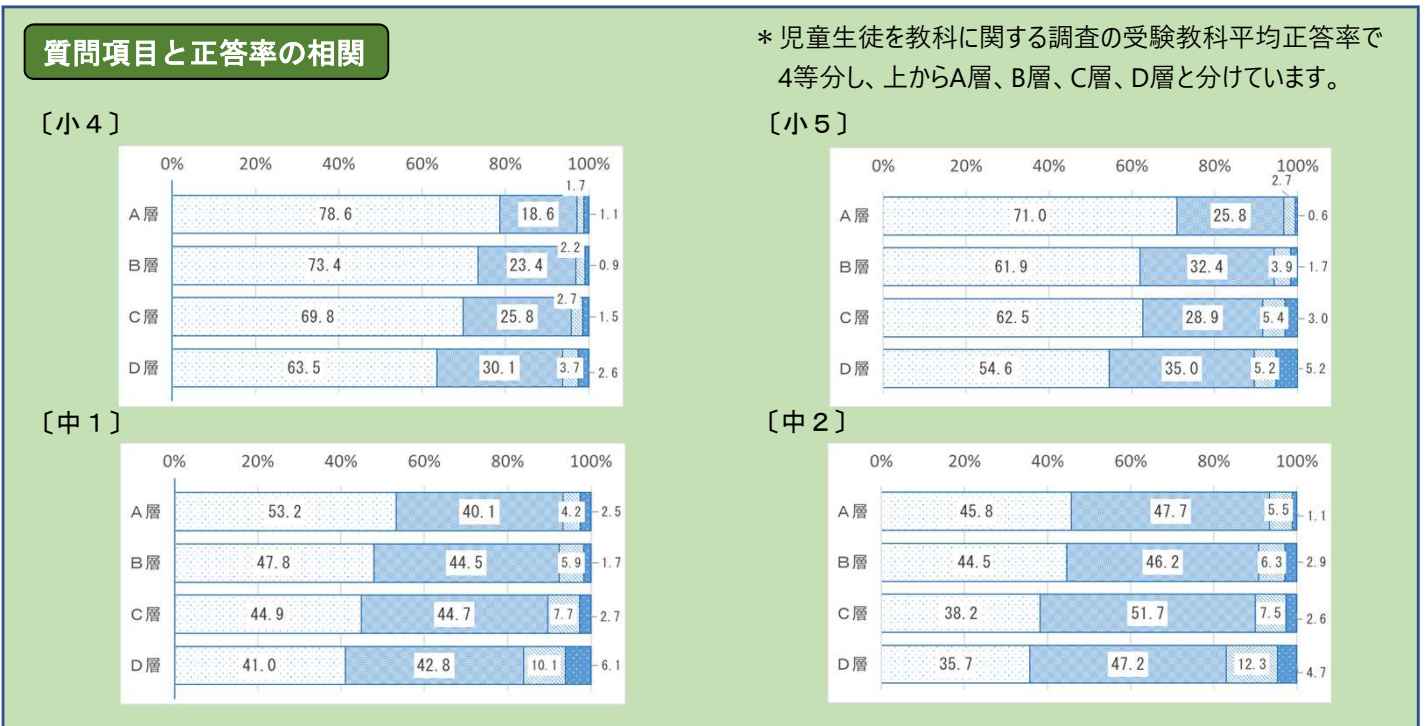
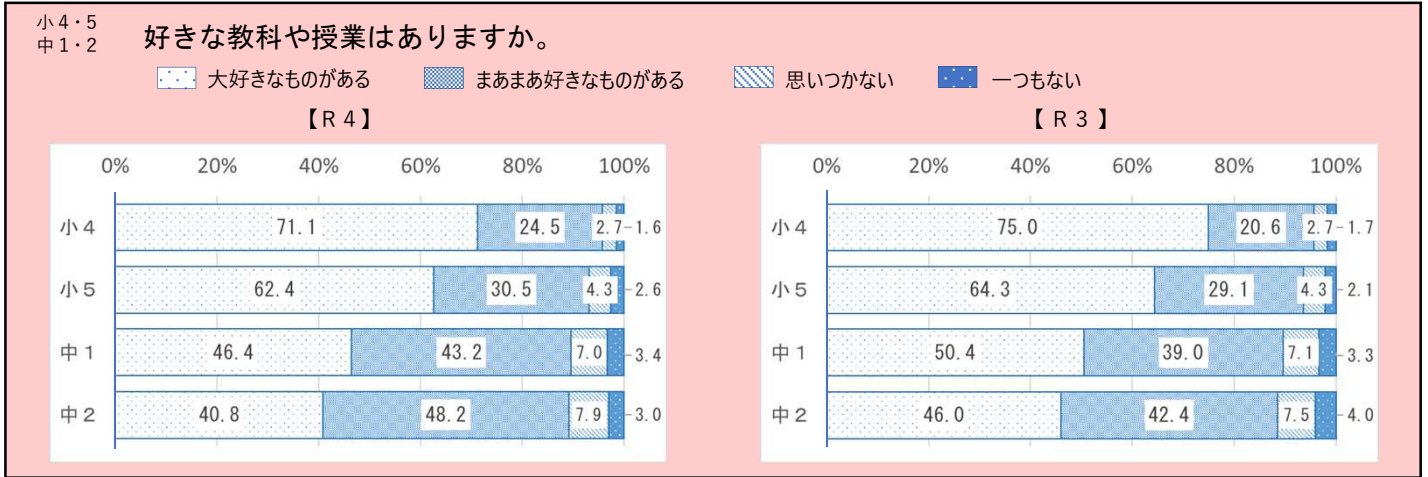
【R3】



- 【結果】
- ・「朝食は毎日食べているか」を問う項目では、「毎日しっかり食べている」と回答した児童生徒の割合は、令和3年度より減少している。同一集団でも、減少している。
 - ・「平日（月～金）の勉強時間」を問う項目では、「まったくしない」と回答した児童生徒の割合は、令和3年度と比較するとどの学年でも増加している。また、同一集団でも増加している。
 - ・学年が上がるにつれて、学校の授業以外に平日まったく勉強しない児童生徒の割合が増加している。



・生活習慣のみだれとともに、学習習慣の未定着や学習意欲の低下がみられる。学校生活のみならず、家庭生活への働きかけや保護者と連携した支援が必要であると考え。



【結果】 ・「大好きな教科や授業がある」と回答した児童生徒の割合は、同一集団で見ると、小学5年生、中学2年生ともに、10ポイント近く減少している。また、学力との相関関係においては、好きな教科や授業がある児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。



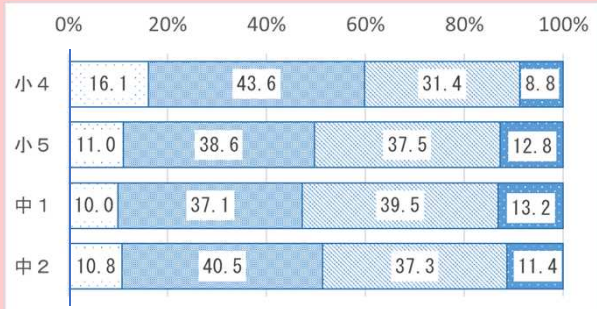
・学年が上がるにつれて、「好きな教科や授業がある」と回答した児童生徒の割合が減っていることから、中学生になるほど、学習に対して苦手意識をもっており、意欲的に学習に向かうことが十分できていないことがうかがえる。発達段階に応じた授業改善の工夫が必要であると考え。

小4 あなたは、じゅぎょうやふだんの生活の中で、ふしぎだな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか。

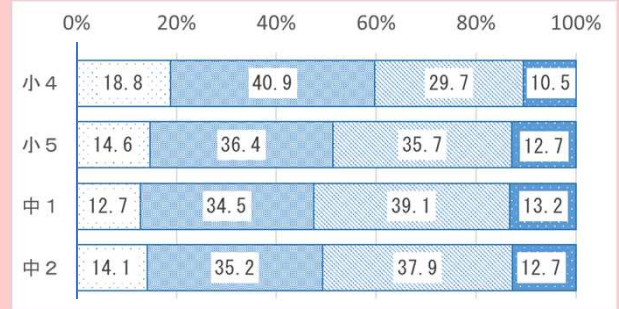
小5 あなたは、授業や日常生活の中で、不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか。

いつも調べている
 だいたい調べている
 あまり調べていない
 そのままにしよう

【R4】



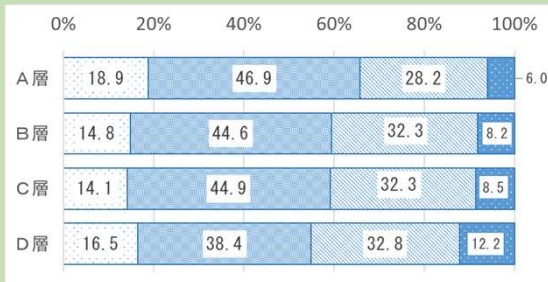
【R3】



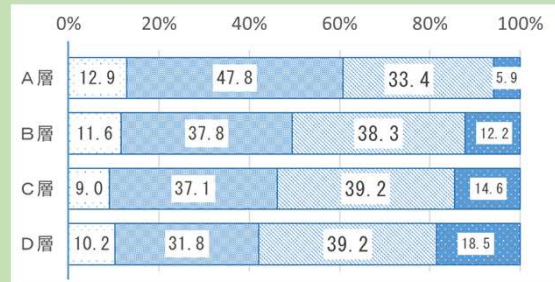
質問項目と正答率の相関

* 児童生徒を教科に関する調査の受験教科平均正答率で4等分し、上からA層、B層、C層、D層と分けています。

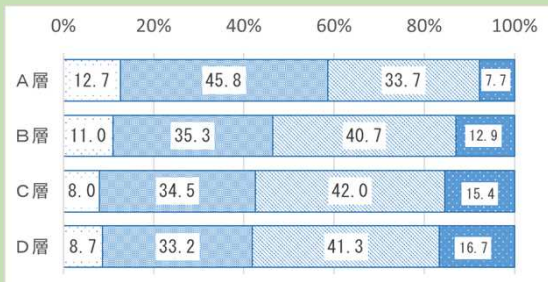
〔小4〕



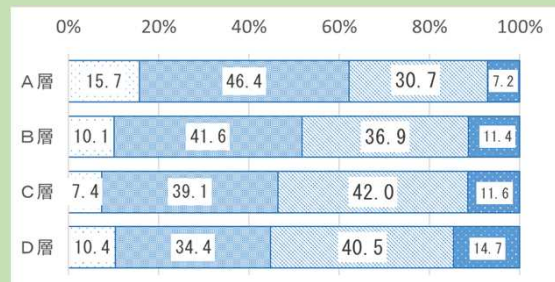
〔小5〕



〔中1〕



〔中2〕



【結果】・同一集団で見ると、中学2年生は、令和3年度より肯定的回答の割合が4ポイント近く増加している。小学5年生は、令和3年度より肯定的回答の割合が10ポイント近く減少している。また、学力との相関においては、不思議だな、どうしてだろうと思ったことを調べている児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向がみられる。



・探究的な活動を取り入れた授業が十分に展開されず、子どもたちが意欲をもって主体的に学習に向かう気持ちを十分に育むことができていないことがうかがえる。自ら課題をもち、課題解決できる授業展開が必要であると考え。

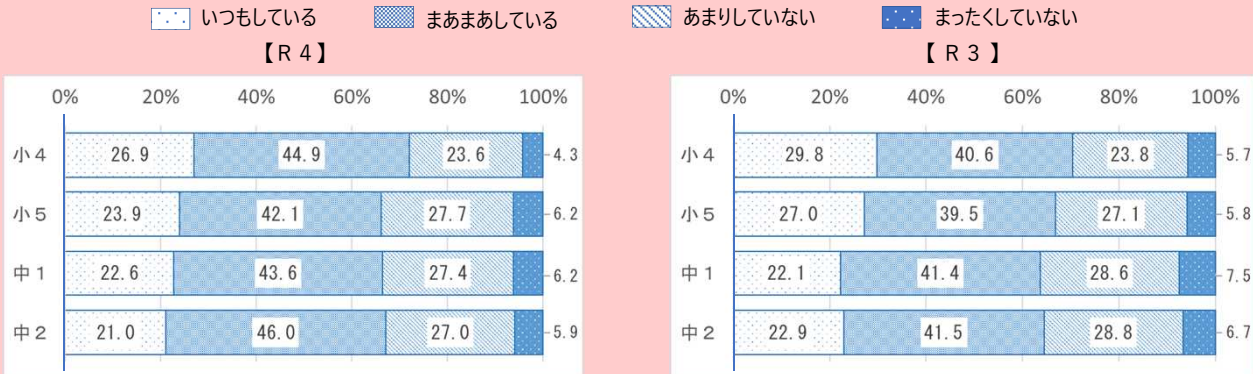


3. 社会性



○規範意識、他者への思いやりの心、自分の気持ちや考えを伝える力、話し合い活動の有無、社会参画などに関すること

- 小4 クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を、活発に発言していますか。
 小5 クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を、積極的に発言していますか。
 中1.2 クラス全体やグループ、友だち同士で話し合いをするとき、自分の意見を、積極的に発言していますか。



【結果】・肯定的回答をした児童生徒の割合は、小学生は、ほぼ横ばいであるが、中学生は増加している。同一集団でみると、小学5年生は、令和3年度より減少しており、中学2年生は、令和3年度より増加している。



・児童生徒の対話を意識した授業が行われているが、特に中学校においては、生徒同士の関わりがより意識され、主体的・対話的な授業へと改善が図られていることがうかがえる。

4. ICT活用

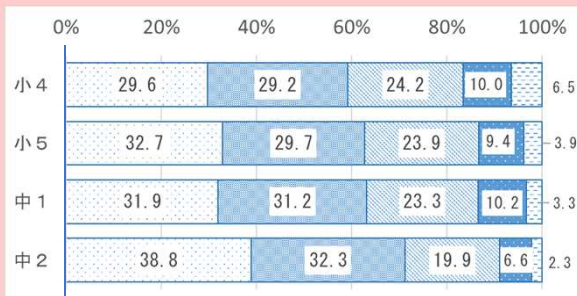
○コンピューターなどのICT機器の活用状況に関すること

【R4】

小4・5 中1・2

授業で、タブレットなどのICT機器を、どの程度使用していますか。

ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上
 月1回以上 月1回未満

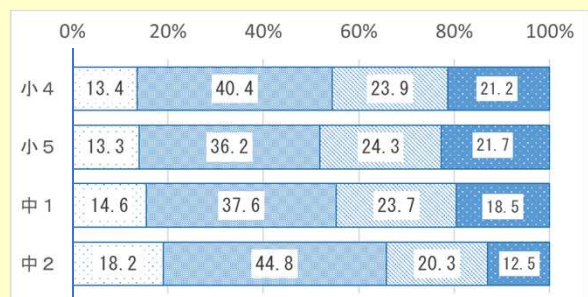


【R3】

小4・5 中1・2

あなたは学校で、コンピューターなどのICT機器を他の友だち（生徒）と意見を交換したり、調べたりするために、どの程度使用していますか。

ほぼ毎日 週1回以上
 月1回以上 月1回未満



【結果】・どの学年も「ほぼ毎日」使用している割合が、令和3年度より倍以上増加している。同一集団でみると、小学5年生は令和3年度より20ポイント近く、中学2年生は25ポイント近く増加している。



・学年が上がるにつれて、ICT機器を活用した授業実践が進んできていることがうかがえる。ICT機器の日常的な活用については十分でないことから、各校での取組の推進が必要である。